

マークをクリックするとそのページを見ることができます



発生動向総覧
P.2-3

<20週> 流行性耳下腺炎の定点当たり報告数はここ10年間で最大の値となっている / その他最新動向



注目すべき感染症
P.4

<麻疹> 第20週の報告患者総数は1,519で、定点当たり報告数は0.51



病原体情報
P.5

患者から分離・検出された病原体報告 - 咽頭結膜熱 / 流行性角結膜炎 / 手足口病 / 感染性胃腸炎 - ロタウイルスおよびSRSV / インフルエンザウイルス



速報
P.6

エンテロウイルス71型による脳炎死亡例を含む手足口病の流行 - 兵庫県



海外感染症情報
P.7

急性の神経症状を合併する症候群の発生 - バングラデシュ / ブルガリアでポリオの輸入例 / 他



感染症の話
P.8-11

伝染性単核症(IM)
IMは思春期から若年青年層に好発し、大部分がEpstein-Barrウイルス(EBV)の初感染によって起こる



読者のコーナー
P.12



グラフ総覧(20週)
P.13-19



20週のデータ
P.20-27



発生動向総覧

第20週コメント 5月25日集計分

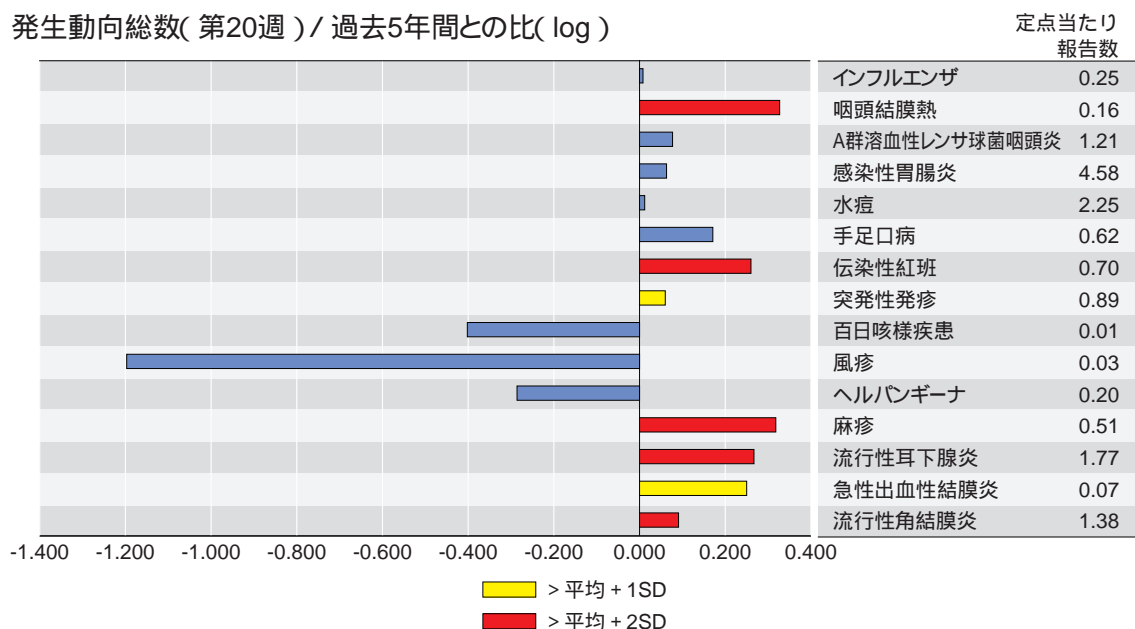
全数報告の感染症

- 1類感染症: 報告なし
- 2類感染症: コレラ1例(推定感染地: インド)、細菌性赤痢11例(推定感染地: 国内、インド、カンボジア、ネパール各2例、モロッコ、パプアニューギニア、ネパール・中国・インド各1例)、腸チフス2例(推定感染地: バングラデシュ、フィリピン各1例)
- 3類感染症: 腸管出血性大腸菌感染症41例(うち23例が埼玉県、東京都、神奈川県、千葉県、群馬県などの関東地方からの報告。埼玉県ではDNAパターンが一致した4例が確認されているが、感染ルートは調査中。)
- 4類感染症: アメーバ赤痢5例、クロイツフェルト・ヤコブ病3例(すべて孤発性)、ツツガムシ病8例(うち秋田県5例)、破傷風1例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症1例、レジオネラ症1例
 - 急性ウイルス性肝炎14例
 - A型8例
 - B型5例__感染経路: 不明3例、性行為2例
 - C型1例__感染経路: 不明
 - 後天性免疫不全症候群14例(AIDS 5例、無症候性キャリア9例)
 - 感染経路: 不明1例、性行為13例(同性間9例、異性間4例)
 - 梅毒5例(早期顕症3例、無症候2例)
 - マラリア2例
 - 三日熱マラリア1例(推定感染地: パプアニューギニア)
 - 熱帯熱マラリア1例(推定感染地: アフリカ大陸)

定点把握の対象となる4類感染症(週報対象のもの)

麻疹は過去5年間の同時期と比較して定点当たり報告数がかかなり多い状態が続いている(詳細は4ページ「注目すべき感染症」参照)。流行性耳下腺炎の定点当たり報告数はここ10年間で最大の値となっている。流行性耳下腺炎は福井県で定点当たり報告数8.0、新潟県で4.2、佐賀県で4.1、福岡県で3.3、香川県で3.0と報告が多くなっている。伝染性紅斑は関東地方、北陸地方などで定点当たり報告数が多くなっている。流行性角結膜炎も過去の同時期と比較して定点当たり報告数がかかなり多くなり、茨城県で5.1、宮崎県で3.8、広島県で3.3の報告がある。急性出血性結膜炎は長崎県で報告が多くなっている。

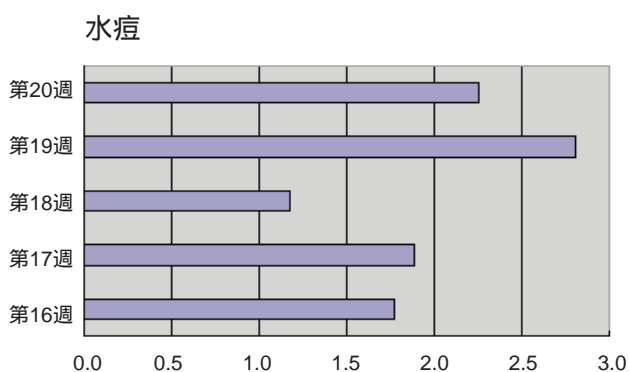
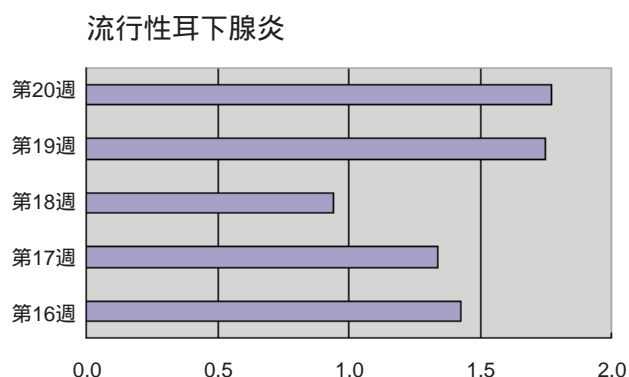
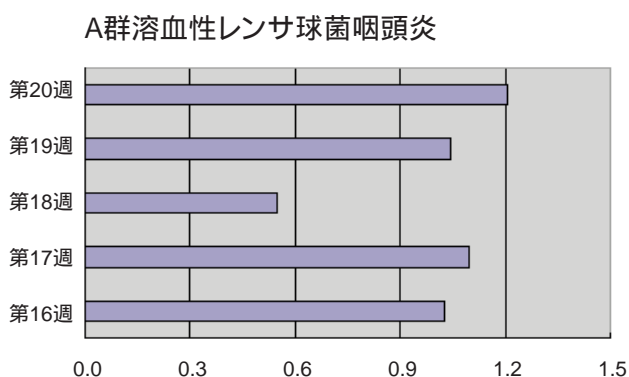
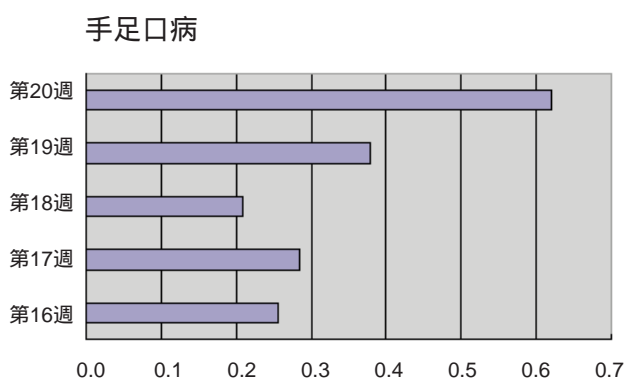
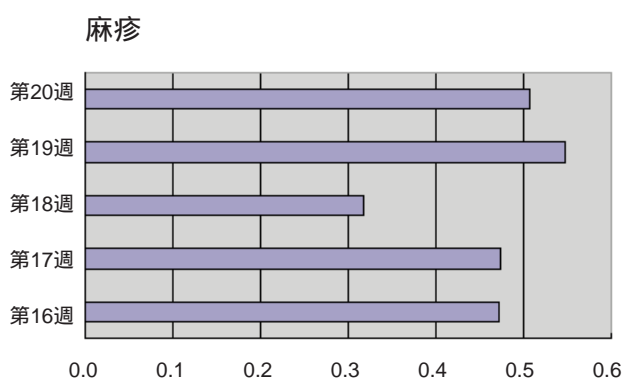
発生動向総数(第20週) / 過去5年間との比(log)



当該週と過去5年間の平均 (過去5年間の前週、当該週、後週の合計15週の平均) の比を対数にてグラフ上に表現した。1標準偏差を超えた場合黄で、2標準偏差を超えた場合赤で色分けしている。

最近の注目疾患－5週間の動き

麻疹と水痘は前週よりやや定点当たり報告数が減少している。流行性耳下腺炎の定点当たり報告数は前週とほとんど変わらず、ここしばらく報告数が多い状態が持続することが予想される。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は定点当たり報告数が前週より増加した。手足口病は患者報告数が増加傾向にある。



(注) グラフの横軸は各疾患の定点当たり報告数(報告総数/定点総数)を表す。疾患によって目盛りのスケールが違うことに注意。



注目すべき感染症

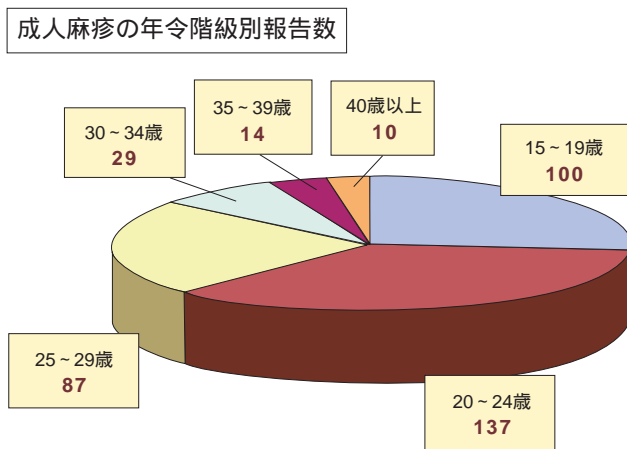
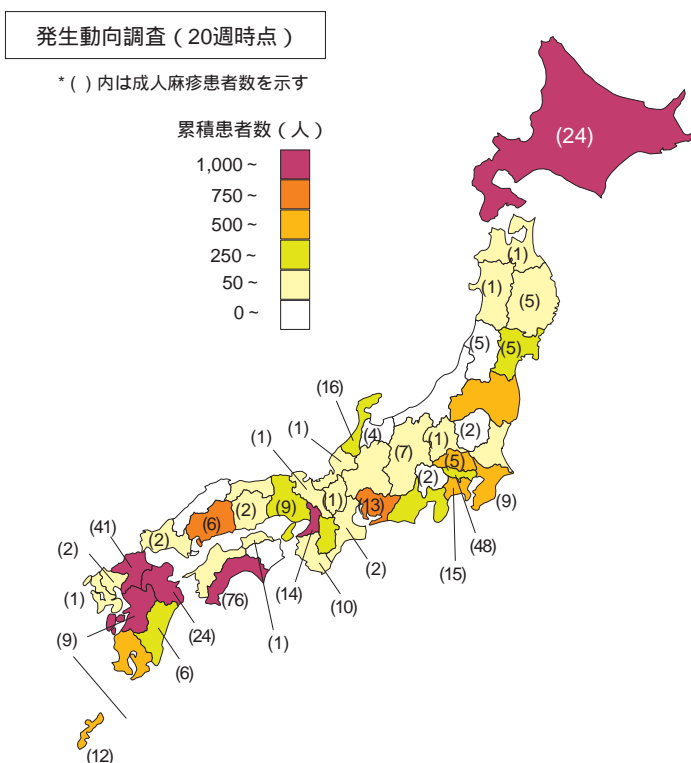
麻疹流行状況

2001年は当初より高知県、奈良県、九州地方などで流行がみられ、3月に入って北海道でも患者数が急増し、過去5年間と比較して定点当たり報告数がかかなり多い状態が続いている。

2001年第20週(5月14日 ~ 5月20日)の、全国定点医療機関からの麻疹報告患者総数は1,519で、定点当たり報告数は0.51である。2001年第1週からの累積患者数は19,125、性別内訳は男10,367、女8,758とやや男性に多い。累積報告数の年齢階級別では1歳未満2,565(うち6カ月未満244)、1歳4,208、2歳1,954、3歳1,412、4歳1,240、5~9歳4,383、10~19歳2,997、20歳以上366となっている。1999年4月より施行された「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」に基づく感染症発生動向調査では、小児科定点から報告される麻疹患者は18歳未満の小児であるが、小児科を受診する成人麻疹患者もあり、実際はこれらの症例が小児科定点を通じて報告されている。

また、上記で報告される麻疹とは別に「成人麻疹(18歳以上)」という項目を設けてサーベイランスを行っているが、これらの症例は基幹病院定点からの報告であり、多くは入院を要するような比較的重症例であると考えられる。2001年第1週から第20週までの成人麻疹累積報告数は383(昨年同期131)、年齢階級別で多いのは、20~24歳(137)、20歳以下(106)、25~29歳(87)などである。

厚生労働省感染症発生動向調査警報・注意報発生システムによれば、麻疹流行警報が福岡県の9保健所、大分県、熊本県、北海道の8保健所、大阪府、高知県の6保健所など95の保健所で、注意報は、神奈川県11保健所、大阪府の8保健所、東京都、福岡県の6保健所など93の保健所で発生している。





病原体情報

*グラフはIASRホームページ(<http://idsc.nih.go.jp/iasr/index-j.html>)からの引用です。

咽頭結膜熱患者から分離されたウイルス

2001年(2001年5月24日現在報告分)

本年、分離報告されたウイルスは、アデノウイルス3型31件(長野県16、滋賀県、岡山県、広島市、宮崎県各2、札幌市、東京都、埼玉県、奈良県、兵庫県、神戸市、愛媛県各1)、4型13件(兵庫県11、新潟県2)、7型6件(新潟県6)、1型4件(長野県2、広島市2)、2型3件(長野県2、広島市1)、19型1件(広島市1)である。

流行性角結膜炎患者から分離されたウイルス

2001年(2001年5月24日現在報告分)

本年、分離報告されたウイルスは、アデノウイルス3型26件(札幌市9、香川県6、長野県、熊本県各3、山形県、東京都、滋賀県、大阪府、大阪市各1)、4型12件(札幌市7、茨城県、香川県各2、長野県1)、37型4件(札幌市3、熊本県1)、8型3件(岡山県2、札幌市1)、19型2件(札幌市、長野県各1)である。

手足口病患者から分離されたウイルス

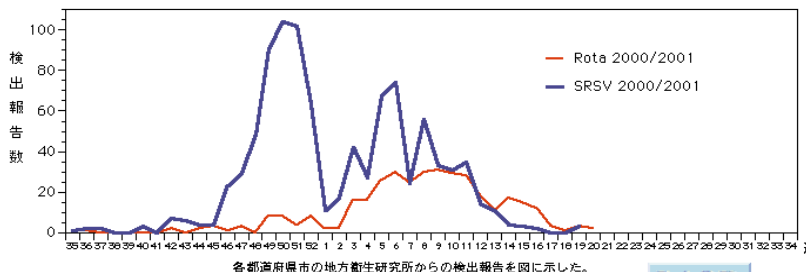
2001年(2001年5月23日現在報告分)

本年、分離報告されたウイルスは、コクサッキーウイルスA16型(CA16)6件(長野県3、長崎県2、宮崎県1)、A2型(CA2)1件(神奈川県)、エコーウイルス2型5件(大阪府5)、エンテロウイルス71型(EV71)3件(島根県3)である。

感染性胃腸炎 2000/2001シーズン ロタウイルスおよびSRSV検出報告 (2001年5月25日現在報告分)

今シーズンのロタウイルスの検出は355件、SRSVの検出は945件報告されている。最近では、ロタウイルスは第19週に新潟県2、福井県1、第20週に奈良県2、SRSVは第19週に新潟県1、滋賀県2が報告されている。SRSVは、過去2シーズンと同様に第50週のピークに加えて、第6週と第8週にも滋賀県などからの報告増加によるピークがみられている。

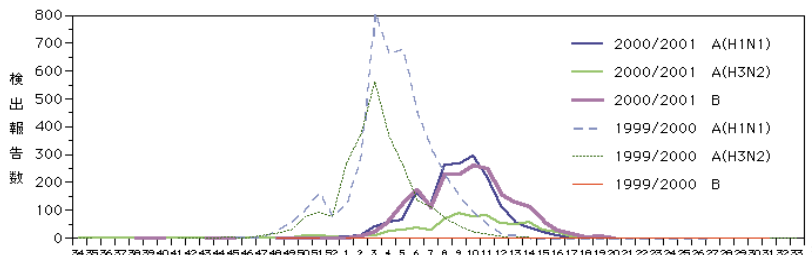
週別 SRSV & ロタウイルスの検出報告数、2000/2001シーズン
(病原微生物検出情報：2001年5月25日現在報告数)



インフルエンザ 2000/2001シーズン(2001年5月25日現在報告分)

今シーズンの分離ウイルスは、A/ソ連(H1N1)型が1,748件、A/香港(H3N2)型が696件、B型が2,003件報告されている。昨シーズンはA/ソ連(H1N1)型とA/香港(H3N2)型がともに第3週をピークとして分離されたが、今シーズンはA/香港(H3N2)型が第9週、A/ソ連(H1N1)型とB型は第10週がピークとなった。最近では、A/ソ連(H1N1)型が第19週に1(山形県)、A/香港(H3N2)型が第19週に2(山形県、長野県)、第20週に1(愛媛県)、B型は第19週に1(札幌市、山形県、福井県、長野県、奈良県)、第20週に2(長野県、奈良県)が報告されている。

週別型別インフルエンザウイルス分離・検出報告数の推移、2000/2001シーズン
(病原微生物検出情報：2001年5月25日現在報告数)





エンテロウイルス71型による脳炎死亡例を含む手足口病の流行 - 兵庫県

手足口病と中枢神経系疾患を併発した流行が2000年6～8月に兵庫県南西部の一地域で発生した。中枢神経系疾患を併発した手足口病患者は29名で、そのうちの25名は無菌性髄膜炎、7名は小脳失調症、5名は脳炎、1名は急性弛緩性麻痺を併発していた(9名は複数の中枢神経系疾患を併発していた)。また、脳幹脳炎を併発した2歳女児が死亡した。患者の平均年齢は約3歳、重症者は2歳以下で多く、4歳以上では無菌性髄膜炎患者が多い傾向が見られた。

手足口病と中枢神経系疾患を併発した患者29名のうち12名についてのウイルス分離および臨床検体のRT-PCRでは、エンテロウイルス71型(EV71)の分離陽性は7名、EV71遺伝子は8名(死亡例1名を含む)から検出され、計10名(83%)がEV71が陽性となった。ウイルス分離が陽性であるにもかかわらずRT-PCRが陰性となったケースが2例あったが、この検体に関しては現在さらに検討中である。RT-PCRの増幅DNA(VP4領域)のシークエンスは、EV71(GenBank AB051323)と201/207base(97%)、アミノ酸に翻訳すると69/69(100%)一致したためEV71と同定した。なお、この塩基配列は、清水ら(Jpn. J. Infec. Dis., 52, 12-15, 1999)のEV71の分類によると、タイプA (A-2)に属していた。

この流行におけるEV71は分離および中和(国立感染症研究所から分与された抗EV71血清を使用)による同定が困難なため、分離株からRNAを抽出し、これをBrownら(J. Clin. Virol., 16, 107-112, 2000)の設計したEV71のVP1領域を特異的に増幅するプライマーを用いたRT-PCR反応により検討した。その結果、分離株すべてで484bpの明瞭なEV71特異的バンドを確認した。

検査した患者の83%からEV71が検出されたことから、このウイルスが脳炎死亡例を含む手足口病の流行の病原と考えられた。しかし、県内全域で手足口病の流行が見られたが、中枢神経系疾患を併発した患者が局所的に多発した原因は不明で、現在その分離株等についてさらに検討中である。

兵庫県立衛生研究所 藤本嗣人 近平雅嗣 増田邦義
 神鋼加古川病院 吉田 茂 籾 ひとみ 今井恵介 三舛信一郎
 国立感染症研究所 長谷川斐子
 国立公衆衛生院 西尾 治

(IASR2001年6月号掲載予定記事より抜粋、詳細は同号参照)



海外感染症情報

急性の神経症状を合併する症候群の発生 - バングラデシュ

WHO/CSR 2001年5月25日

インドとの国境沿いにあるMeherpurで4月26日から5月12日の間に9人の死者を含む28人の患者が発生したことをバングラデシュ保健省が報告した。症状は増悪する発熱、倦怠感、頭痛、昏睡であり、死に至ることもある。

バングラデシュ保健省の対策チームは流行を調査し、生存者や接触者から検体を採取した。WHOおよびその協力機関は、保健省を支援して情報を評価したり、さらなる調査を行うために専門家を派遣している。

エチオピアでの髄膜炎菌感染症 - 更新

WHO/CSR 2001年5月25日

エチオピアの11地方のうち10地方で死者392人を含む5,636人の髄膜炎菌感染症患者がWHOに報告された。流行は全般的に収まりつつあるが、新たに流行が始まった地域もある。ワクチン接種キャンペーンは新たに流行が始まったAmhara地区のDembia、Oromiya地区のDegemおよびAboteの3カ所などを中心に行われている。

ブルガリアでポリオの輸入例

Eurosurveillance weekly 2001年5月21日

ヨーロッパで1998年以来となるポリオ患者2例がブルガリアで発見されたことがWHOとブルガリア政府から発表された。

3月24日に黒海沿岸のBurgas市でロマニー(ジプシー)の13カ月の小児が急性弛緩性麻痺を発症し、4月17日に野生株ポリオ1型が確認された。直ちに他のロマニーの小児にワクチン接種が行われ、ブルガリア政府は4月23日にWHOに詳細な報告を行った。

この症例の他に、5月15日にBurgas市から西へ90kmの場所で2歳のロマニー少女にポリオウイルス感染が確認された。この小児には下肢と左上肢に麻痺が認められたと報告されている。パリ、ローマ、アトランタの研究所において、分離されたウイルスの遺伝子配列が決定され、このウイルスは北インドで流行しているポリオウイルス1型であると確認された。

ポリオ患者2例の発見によってブルガリアでは5月28日にワクチン接種キャンペーンを行う予定であったが、ワクチン不足を理由に延期した。ブルガリア保健省はユニセフの協力で数日以内に80万人分のポリオワクチンが輸入される予定であると述べている。

ポリオによる麻痺は100人が感染しても発症するのは1人以下にしか起こらないので、離れた場所での2症例の発生はロマニー社会でポリオウイルスの循環が広範囲で起こっていることを示唆する。ブルガリアのポリオワクチン接種率は95%であるが、ロマニー社会では接種率がもっと低いと考えられる。ブルガリアの小児の約5%は明らかにポリオワクチン接種を受けていないので、ブルガリア当局がすぐに行うべきことは、ポリオウイルスの伝播を防ぐために広範囲にワクチン接種を行うことである。



感染症の話

伝染性単核症

伝染性単核症(infectious mononucleosis, 以下IM)は、1889年Pfeifferらによって腺熱として初めて報告された疾患で、IMという名称は1920年SpruntとEvansらによって初めて用いられるようになった。

その後1932年にPaulとBunnellが異好抗体(heterophile antibody)を用いた血清学的な診断とIMとの関連について報告し、1937年Davidsohnはこの方法を応用してさらに簡単に迅速なDavidsohn吸収試験を開発した。しかし、この方法は特異性に欠けていた。

1964年、Epstein, BarrらによってアフリカのBurkittリンパ腫患者から新しいヘルペスウイルスが発見され、Epstein-Barr virus(EBV)と命名された。IMとEBVとの関係が報告されたのは、1968年Henleらによるものが最初である。

疫学

IMは思春期から若年青年層に好発し、大部分がEpstein-Barrウイルス(EBV)の初感染によっておこる。

主な感染経路はEBVを含む唾液を介した感染(一部、輸血による感染も報告されている)であり、乳幼児期に初感染を受けた場合は不顕性感染であることが多いが、思春期以降に感染した場合にIMを発症することが多く、kissing diseaseとも呼ばれている。EBVの既感染者の約15 ~ 20%は唾液中にウイルスを排泄しており、感染源となりうる。

日本人でのEBV抗体保有率に関しては1997年のKusuharaらの報告によると、12 ~ 23カ月齢児において54.5% ~ 55.8%であり、同じヒトヘルペス科ウイルスであるヒトヘルペスウイルス6(HHV-6)やヒトヘルペスウイルス7(HHV-7)に比して、感染時期は遅い。

年齢別抗体保有率は国により異なり、我が国においては2 ~ 3歳までに70%位が感染を受け、20歳代で90%以上が抗体を保有しているのに比して、欧米では生活習慣の違いなどにより、乳幼児期の感染は20%前後、それに伴い若年青年層における抗体保有率も低く、IMの発症は本邦より多いと考えられる。

現在の日本においては患者の届け出の義務はないため、正確な患者発生数は不明であるが、米国の報告では、年間一般人口10万人当たり約50人の患者発生が認められている。ただし、感受性のある大学生においては10万人当たり約5,000人がIMを発症することから、不顕性感染者の数を考慮すると、大学生におけるEBVの感染率は年間10万人当たり約12,000人程度存在すると見積もられている。

一方我が国においては、好発年齢である思春期以降は勿論のこと、乳幼児期のEBVの初感染においても注意深く観察すれば、IMの症状を認める場合があることが言われており、注意を要する。さらに、従来ヒトサイトメガロウイルス(CMV)の妊娠可能年齢における抗体保有率は90%以上であったが、最近70%台に下がってきているという報告もあり、今後のEBVに対する抗体保有率についても注意深く観察する必要がある。

いずれの場合においても、IMの発症機序はEBVに対する細胞性免疫反応の過剰反応であると考えられており、細胞性免疫が発達した思春期以降の方が、乳幼児期より発症頻度が高いのはこのことによる。

病原体

ほとんどがEBVの初感染によるが、一部サイトメガロウイルス(CMV)、HHV-6、アデノウイルス(ADV)、単純ヘルペスウイルス(HSV)、ヒト免疫不全ウイルス(HIV)、A型肝炎ウイルス(HAV)、B型肝炎ウイルス(HBV)、トキソプラズマ、リケッチアによっておこりうる。

EBVはヒトヘルペス科ウイルス 亜科に属する約172kbpの2本鎖DNAウイルスで、直径は約150 ~ 220nmである。ヘルペスウイルスの性質上ひとたび宿主に感染すると一生その宿主に潜伏感染し、免疫抑制状態下で再活性化する性質を有する。

EBVはまず咽頭上皮細胞に感染し、そこで増えたウイルスが、主にEBVの標的細胞であるBリンパ球(一部Tリンパ球やnatural killer(NK)細胞)に感染する。その機序は、EBVのenvelope蛋白であるgp350/220と細胞の補体レセプターCD21との結合で細胞に吸着することである。CD21は主にBリンパ球に発現しているが、Tリンパ球、NK細胞、咽頭上皮を含む上皮細胞にも発現しており、感染のターゲットとなり得る。その後ウイルスはendocytosisにより細胞内に取り込まれ、ウイルスDNAはウイルス粒子の中では線状で存在し、潜伏感染状態では環状に変化し核内で維持される。しかし、この状態ではウイルスは産生されず、一部の遺伝子(EBNA-1,-2,-3a,-3b,-3c,-LP,LMP-1,-2a,-2b,BARF0,EBER-1,-2)のみが発現している潜伏感染状態に入る。再活性化がおこると、まず前早期抗原(immediate early antigen : IEA ; BZLF1,BRLF1)が作られ、その後早期抗原(early antigen : EA ; 酵素類)、後期抗原(late antigen : LA ; capsid蛋白、envelope蛋白)が作られウイルス粒子の産生が始まる。

EBVがlytic cycle(増殖サイクル)に入るとviral IL-10(vIL-10)が産生されることが、Stewartら(1992年)、Tagaら(1995年)によって報告されている。IL-10はTh1細胞の機能を抑制し、Tリンパ球の増殖、IFN- γ 、IL-2の産生を抑制する。これは逆にBリンパ球の増殖、免疫グロブリンの産生、EBV感染Bリンパ球の増加にもつながる。

(以下はEBVによる伝染性単核症に限定する。)

臨床症状

4 ~ 6週間の長い潜伏期を経て発熱、咽頭扁桃炎、リンパ節腫脹、発疹、末梢リンパ球増加、異型リンパ球増加、肝機能異常、肝脾腫などを示す急性感染症である。また、中枢神経症状を呈する症例が認められる。

発熱は高頻度に認められ、多くの場合38以上の高熱で1 ~ 2週間持続する場合が多い。扁桃には偽膜形成を認め、口蓋は発赤が著明で出血斑を認めることもあり、咽頭痛を伴う。リンパ節の腫脹は1 ~ 2週頃をピークとして全身に認められるものの、頸部が主である。発疹は主に体幹、上肢に出現し、斑状、丘疹状の麻疹様あるいは風疹様紅斑であり、その形態は多彩である。アンピシリン(ABPC)を内服すると薬疹を生じて、鮮明な浸出性紅斑様皮疹や丘疹などを呈す。同時に赤血球沈降速度の亢進や、ポリクローナルな高ガンマグロブリン血症、リウマチ因子、寒冷凝集素、抗核抗体の産生など

図1. IMの臨床症状

症 状	頻度 : () は複数の文献における報告例の範囲
発熱	94.6% (86 ~ 96%)
リンパ節腫脹	89.3% (91 ~ 98%)
咽頭・扁桃炎	73.6% (62 ~ 97%)
肝腫大	82.1% (50 ~ 91%)
脾腫大	62.5% (30 ~ 62%)
発疹	31.4% (25 ~ 51%)
眼瞼浮腫	30.4% (12 ~ 24%)
口蓋出血斑	12.5% (0 ~ 20%)

(脇口 宏 : EBウイルスと伝染性単核症. ヘルペスウイルス感染症, 臨床医薬研究協会/中外医学社251-258, 1996より)

が認められる。この現象はEBVによるIMのみならず、CMVによるIMにおいても認められる現象である。

リンパ球増加は診断基準にも含まれており、特徴的な所見であるが、一部に白血球減少を認める場合もある。異型リンパ球は、Bリンパ球増殖に対しておこったCD4陽性細胞や、NK細胞から産生されたサイトカインにより、CD8陽性cytotoxic T lymphocyte(CTL)が活性化したものであるといわれている。10%から中には50%と著増する場合もあるが、中には数%以下の症例も認められる。CD4/CD8比はCD4陽性細胞の減少、CD8陽性細胞の増加により1以下である場合が多い。

肝機能異常はほとんどの症例で認められるが、AST/ALTの増加は第2週頃をピークとして300～500IU/L程度のことが多い。黄疸を伴うことはまれである。なかにはAST/ALTが数千IU/Lと著明な肝機能異常を伴うことがあり、注意を要する。

肝脾腫の頻度は表に示すとおりで、肝腫大の方が頻度が高い。肝臓は肋骨弓下1～2横指触知されることが多い。脾腫に関しては、時に巨大脾腫から脾破裂に至ることもあるため注意を要する。

合併症として認められる中枢神経症状には、無菌性髄膜炎、脳炎、急性片麻痺、Guillain-Barré症候群、視神経炎、脳神経麻痺、末梢神経炎、横断性脊髄炎、急性小脳失調、中枢神経系のリンパ腫などが含まれる。その他まれではあるが、溶血性貧血、血小板減少、再生不良性貧血、B細胞リンパ腫、心筋炎、心膜炎、肺炎、気道閉塞などの報告もある。通常self-limitedな疾患であるが、遺伝疾患である伴性劣性リンパ球増殖症候群(X-linked lymphoproliferative syndrome: XLP; Duncan病)の患者では、先天的にEBV特異的CTL活性が誘導されないため不死化したBリンパ球が減少しないことと、NK活性が低いことも原因となり、致死性伝染性単核症となる。ここでは詳細について触れないが、IMとは別の病態である慢性活動性EBV感染症の長期予後は依然不良である。

尚、一般にCMVによるCMV単核症の場合は、EBVによる場合に比して、咽頭扁桃炎、巨大脾腫の頻度が少なく異好抗体を産生しない。

図2. 小児のIM診断基準 ; 1、2、3の項目を満たせばIMと診断。

1. 臨床症状 : 3項目以上陽性であること
1) 発熱 2) 咽頭・扁桃炎 3) 頸部リンパ節腫脹 (径1cm以上) 4) 肝腫大 (4歳未満 : 季肋下1.5cm以上、4歳以上 : 季肋下に触知) 5) 脾腫 (季肋下に触知)
2. 血液所見
1) リンパ球50%以上あるいは5000/mm ³ 以上かつ異型リンパ球10%以上あるいは1000/mm ³ 以上 2) リンパ球50%以上あるいは5000/mm ³ 以上かつCD8陽性HLA-DR陽性細胞10%以上あるいは1000/mm ³ 以上
3. EBV抗体検査 : 1項目以上陽性であること
1) 急性期にVCA-IgM抗体陽性でその後陰性化 2) 急性期と回復期のペア血清でVCA-IgG抗体価の4倍以上の上昇 3) 急性期にEA抗体陽性、EBNA陰性 4) 急性期にVCA-IgG抗体陽性かつEBNA抗体陰性で回復期にEBNA抗体陽性 5) 急性期にEA-IgM抗体陽性かつEBNA抗体陰性

(Sumayaら : Epstein-Barr virus infectious mononucleosis in children. I. Clinical and general laboratory findings. Pediatr 75 : 1003-10,1985より)

病原診断

図2の「3. EBV抗体検査」にも示したが、EBVに対する抗体反応検査には多くの種類が存在する。これらを総合的に判断してその病態を理解することが重要である。

EBV特異抗体は大きく分けてVCA(virus capsid antigen)抗体、EA(early antigen)抗体、EBNA(EBV nuclear antigen)抗体の3種類が存在する。

VCAおよびEAはIgG,IgM,IgA抗体を測定できる。VCA IgMは通常、初感染急性期に検出さ

れるが、乳幼児では検出されない場合があること、慢性活動性EBV感染症の場合にも陽性を呈することがあるため、注意を要する。VCA IgGは回復期に上昇してくるが、年長児の方が早く上昇するのでIMの急性期から陽性であることが多く、その後陽性が持続する。一方、VCA IgAは上咽頭癌や慢性活動性EBV感染症などの特異な病態の時に検出されることが多い。

EA IgGはIMの急性期の終わりから回復期にEBNA抗体より早く検出され、数カ月の経過で陰性化する。その後再活性化に伴い再び検出されるようになる。EA IgMは急性期のほとんどの症例で検出されるが、検出期間が長いので回復期になっても陽性であることが少なくなく、解釈には注意を要する。

EBNA抗体は感染後数カ月経過してから検出されるため、IMの急性期では陰性である。しかし、EA IgGとは異なり、その後陽性が持続する。EBNA抗体の上昇が遅く、EA IgMが陰性化してもなおEBNA抗体陰性の時期がある場合があるので、注意が必要である。

いずれにしても、一つの抗体価のみでEBV感染症の病態を把握することは困難であり、必ず急性期と4~6週後の回復期、必要ならばさらに数カ月後の複数の血清を用いて結果を判断すべきである。

他に用いられる検査方法としてポールバンネル反応(Paul-Bunnell reaction test)があるが、最近では上記のEBV特異的抗体を用いて診断することが多いこと、日本のIMの患者においては陰性例が少なからず存在することから、この方法を用いることは少なくなっている。これは、IM患者血清中にはヒツジ、ウマ、ウシ、ヤギの赤血球を凝集させる物質(heterophile agglutinin)が存在するが、この凝集素の特異な吸収パターンを利用したものである。

また最近では分子生物学的手法を用いた診断が行われるようになり、定量的polymerase chain reaction(PCR)法を用いて血漿中のfree EBV genome量を測定し、診断に応用できるようになってきた。Kimuraらは、IMの急性期の95%の症例では血漿1ml中に平均 $10^{2.4}$ 個のウイルスが存在するが、その後徐々に減少し1カ月以内に消失すると報告している。一方、重症例であるEBV associated hemophagocytic syndrome(EB-VAHS)や移植後のpost-transplant lymphoproliferative disorder(PTLD)症例などでは著明にウイルス量が増加しており、血漿1ml中のウイルス量は $10^{5.5} \sim 10^{7.4}$ 個にまで達するとのことである。

治療・予防

特異的な治療法は現時点では存在しないことと、一般的にはself-limitingな疾患であるため、対症療法で治療することがほとんどである。IMの診断が得られる前に抗生剤を使う例も見られるが、ABPCを内服すると薬疹を認めることがあるため、この薬剤の使用は避けるべきである。また、重症例や致死性IMが疑われる場合には、抗ウイルス剤を併用したウイルス特異的な治療法が必要になると考えられる。Acyclovirは鼻咽頭へのウイルスの排泄は抑制するものの症状の改善には効果が認められていない。Ganciclovir, foscarnet, vidarabine(Ara-A)などの有効例が報告されているが、いずれも重症型の慢性活動性EBV感染症などに用いられているのみである。また、最近移植医療の進歩に伴い、EBVによるPTLDの発症が問題になっているが、そのような病態の場合には、化学療法やEBV特異的CTL療法、抗CD20単クローン抗体、造血幹細胞移植などの治療法が試みられている。

(国立感染症研究所感染症情報センター 多屋馨子)



読者のコーナー

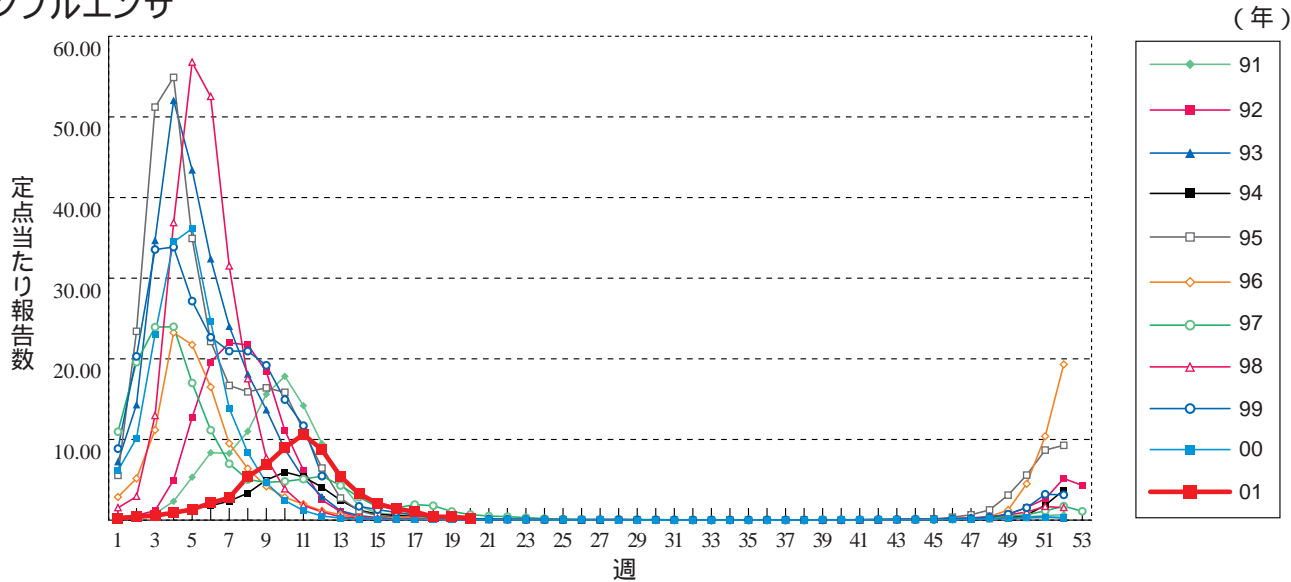
「読者のコーナー」では読者のみなさまからのご意見・ご質問をお待ちしております。
ご意見・ご質問は、題名(タイトル)の一番はじめにidwr-Q:をつけてこちらまでEメールでどうぞ。

idsc-query@nih.go.jp

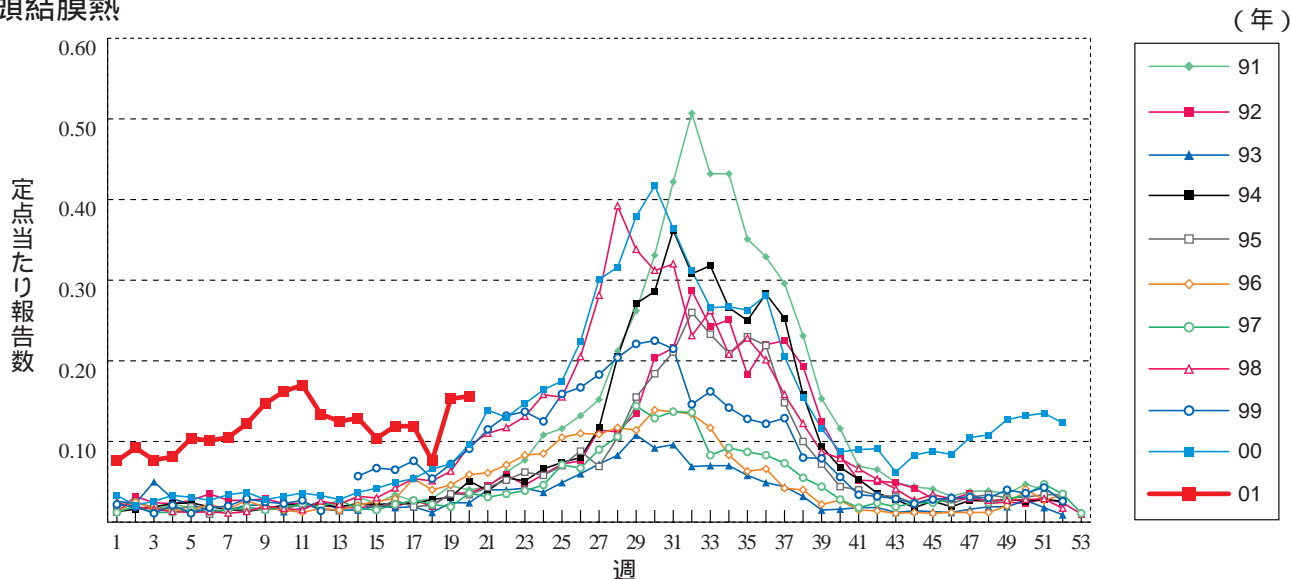


グラフ総覧(20週)

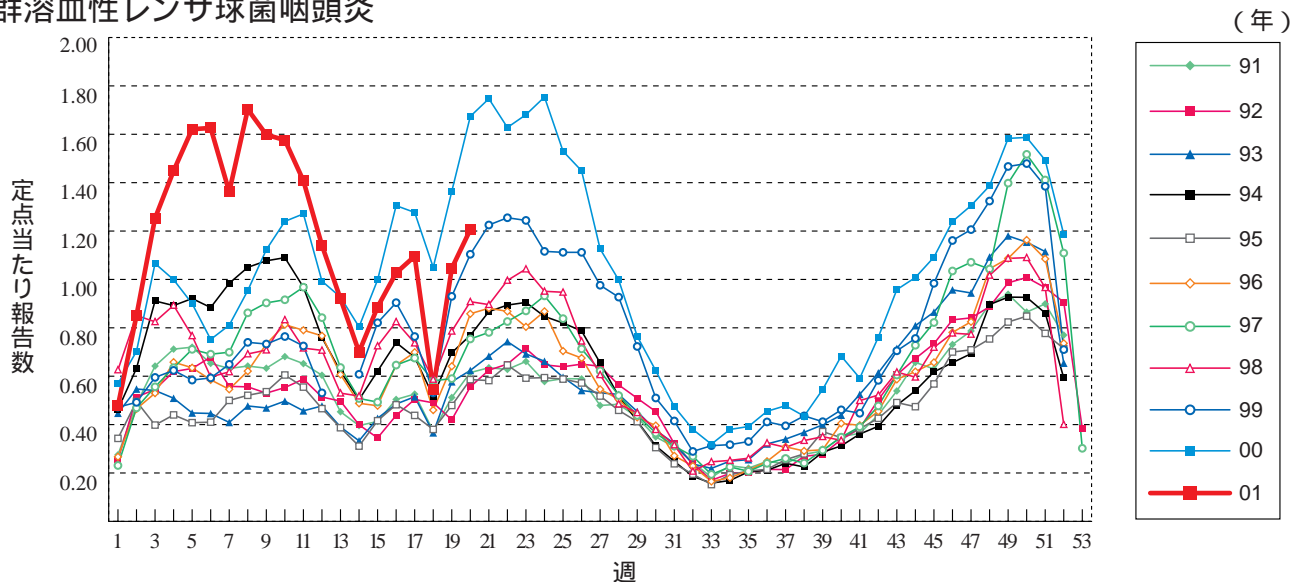
インフルエンザ



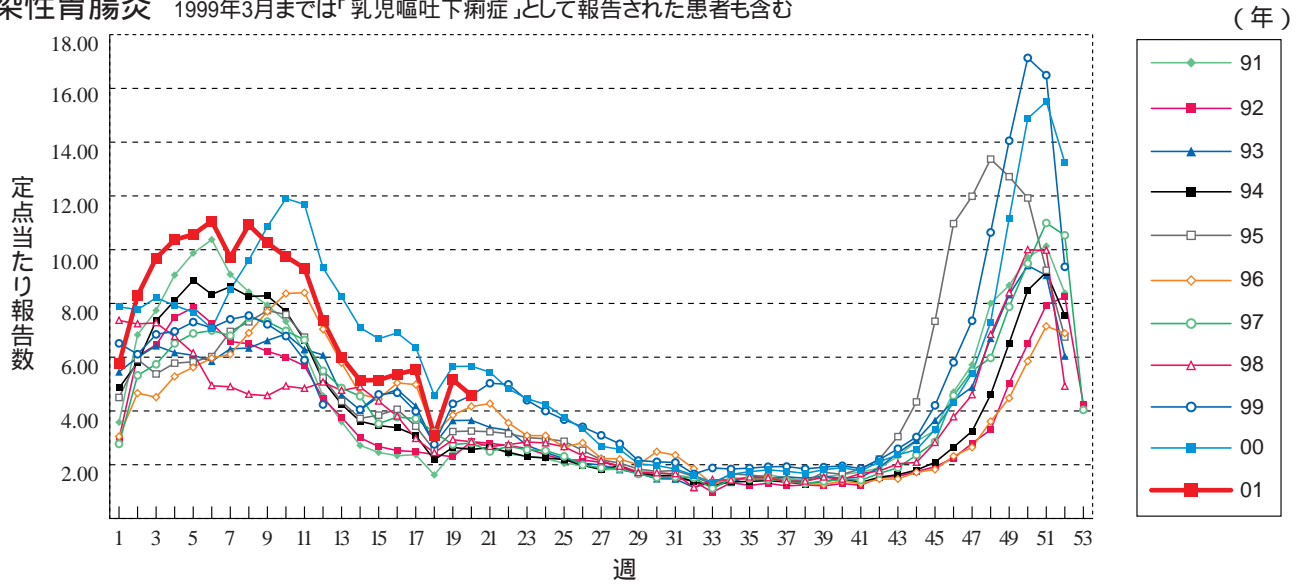
咽頭結膜熱



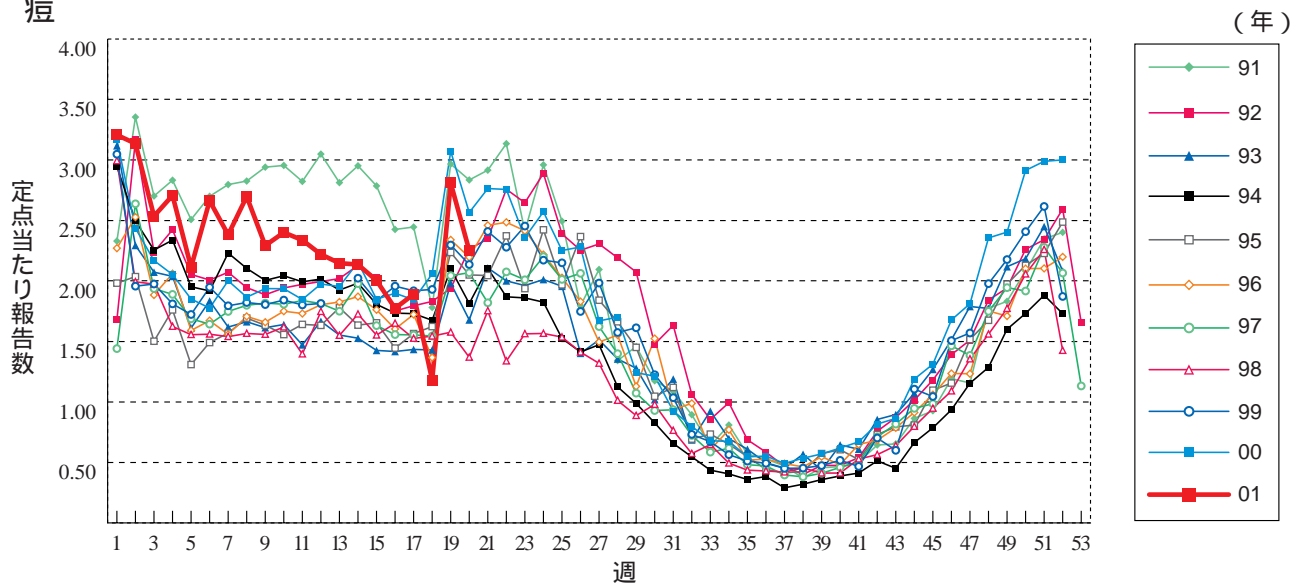
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



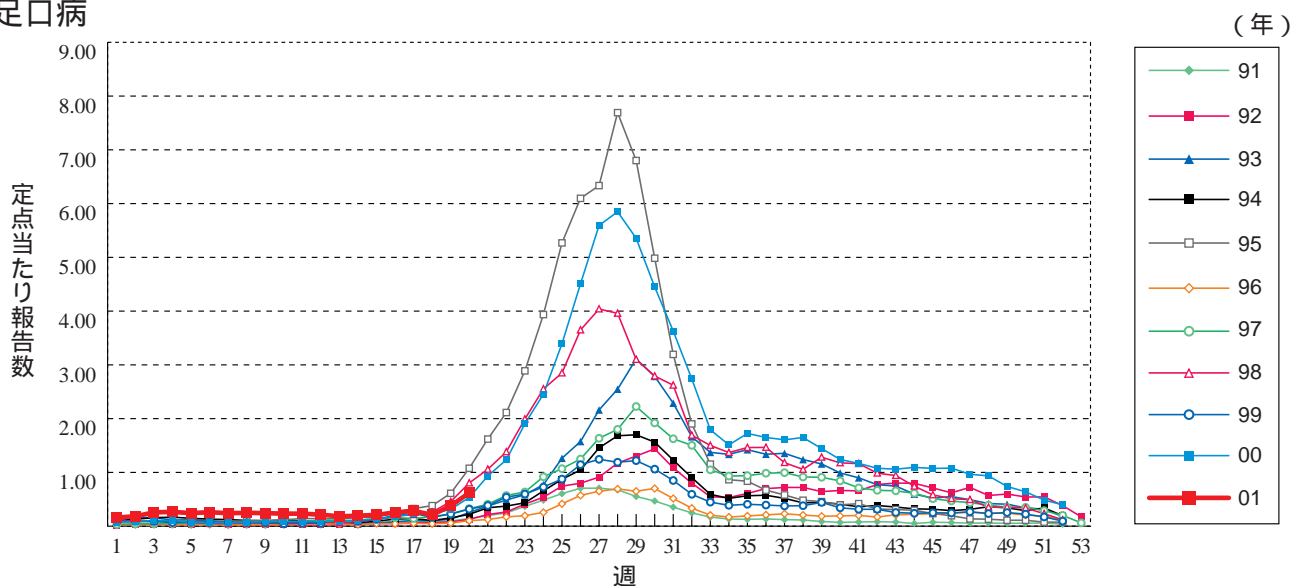
感染性胃腸炎 1999年3月までは「乳児嘔吐下痢症」として報告された患者も含む



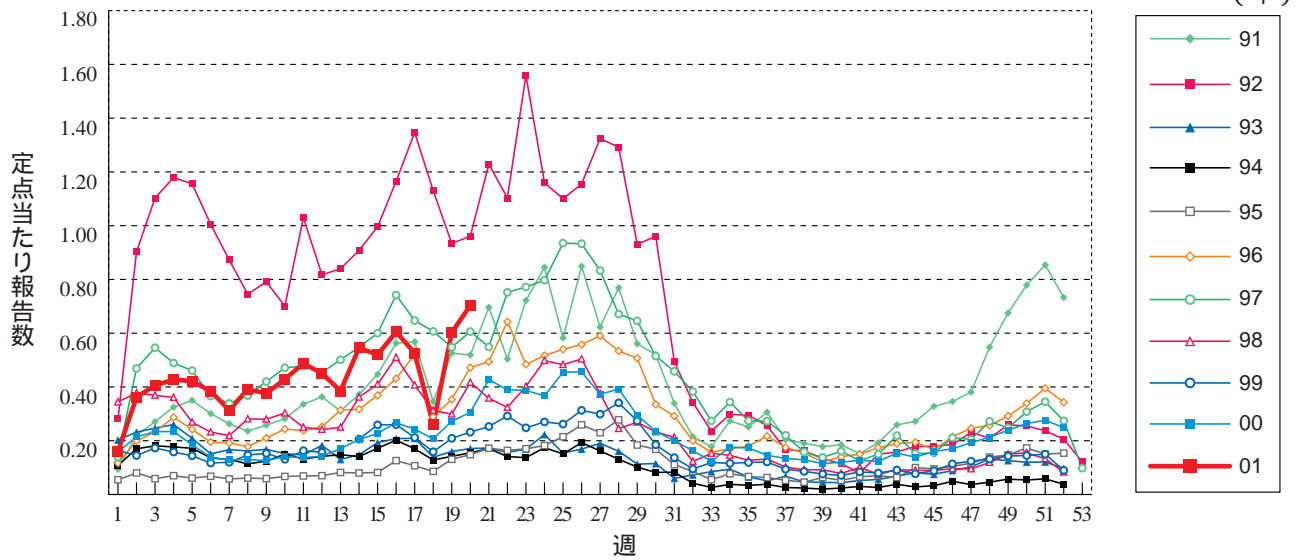
水痘



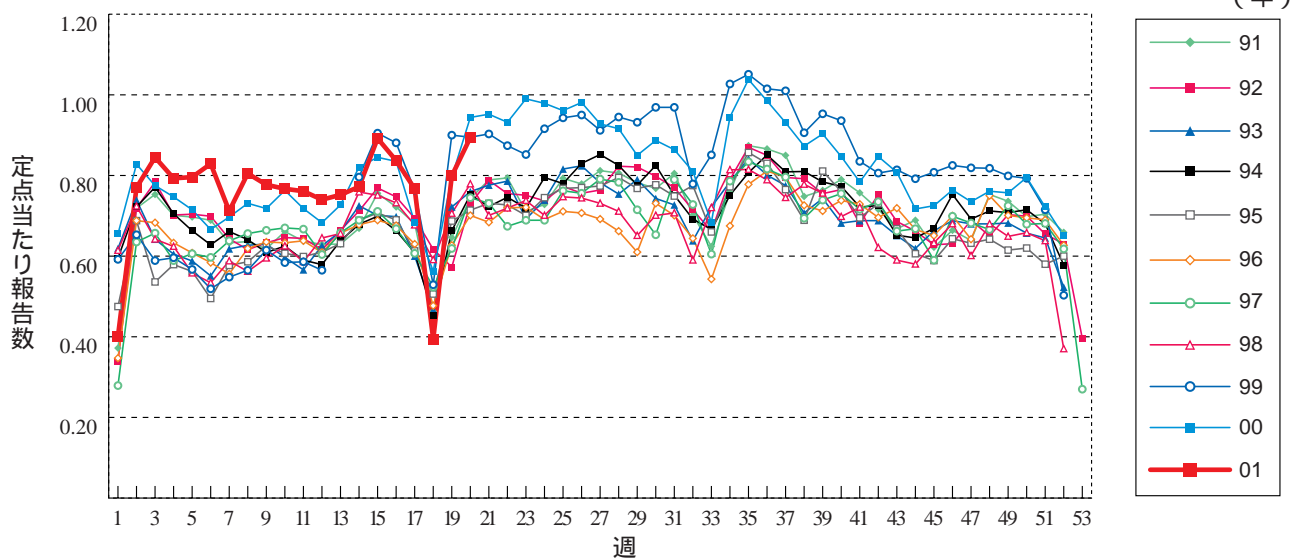
手足口病



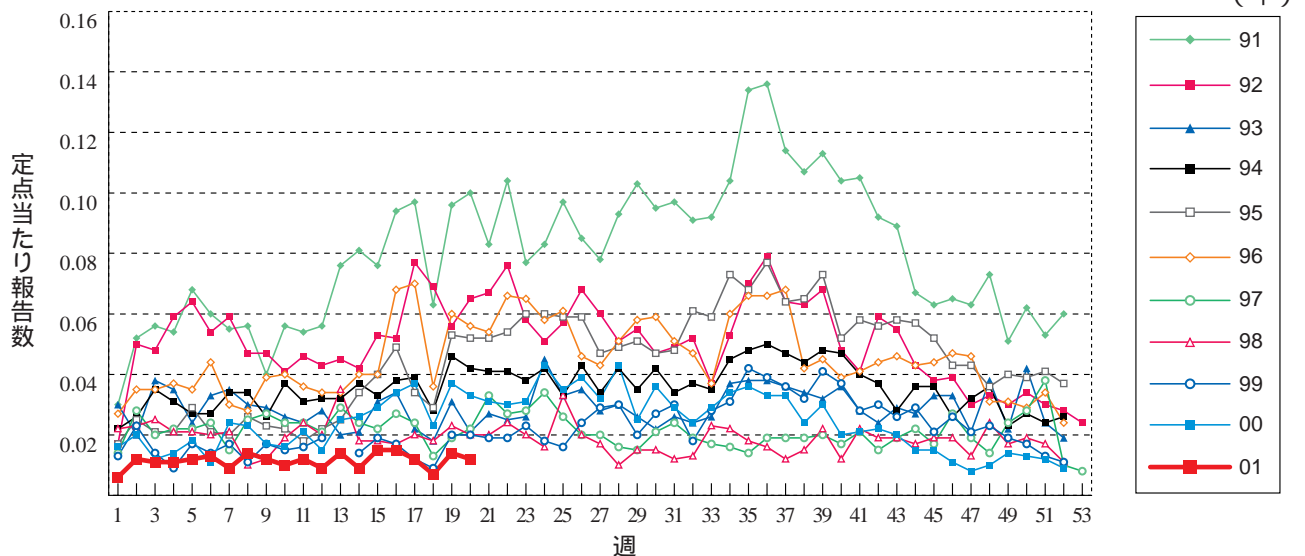
伝染性紅斑



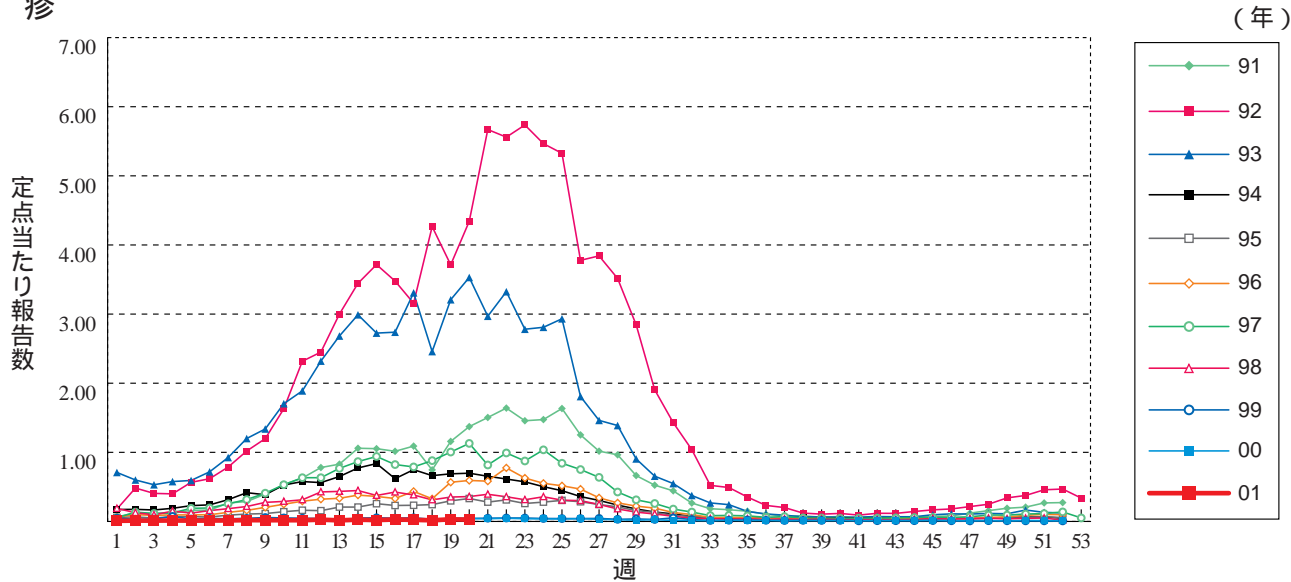
突発性発疹



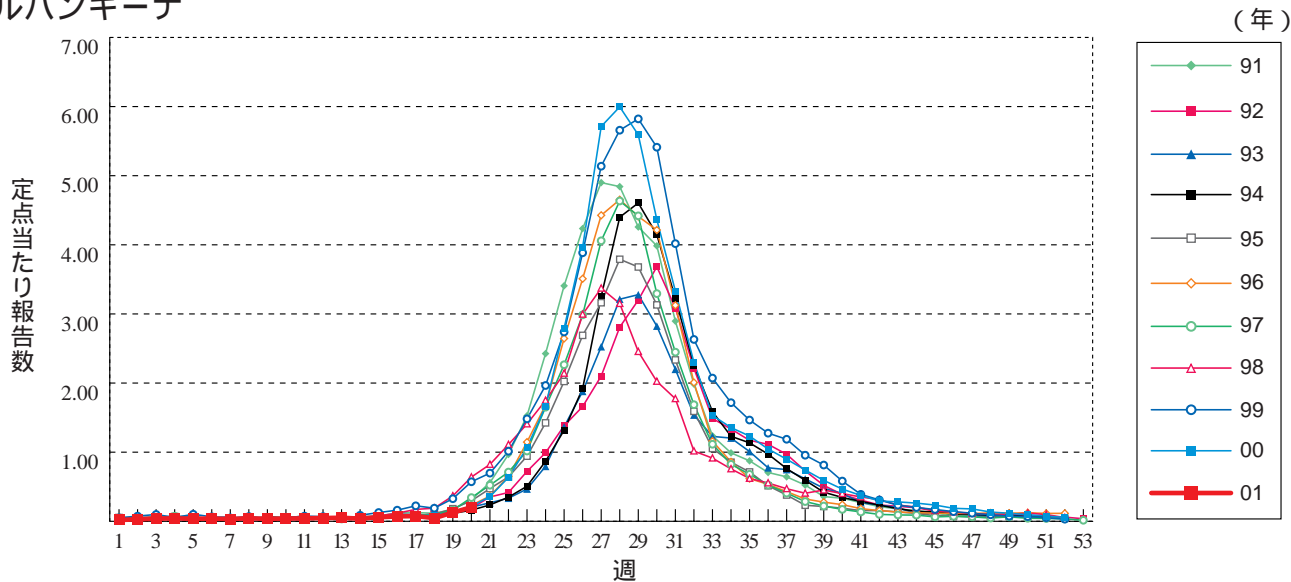
百日咳



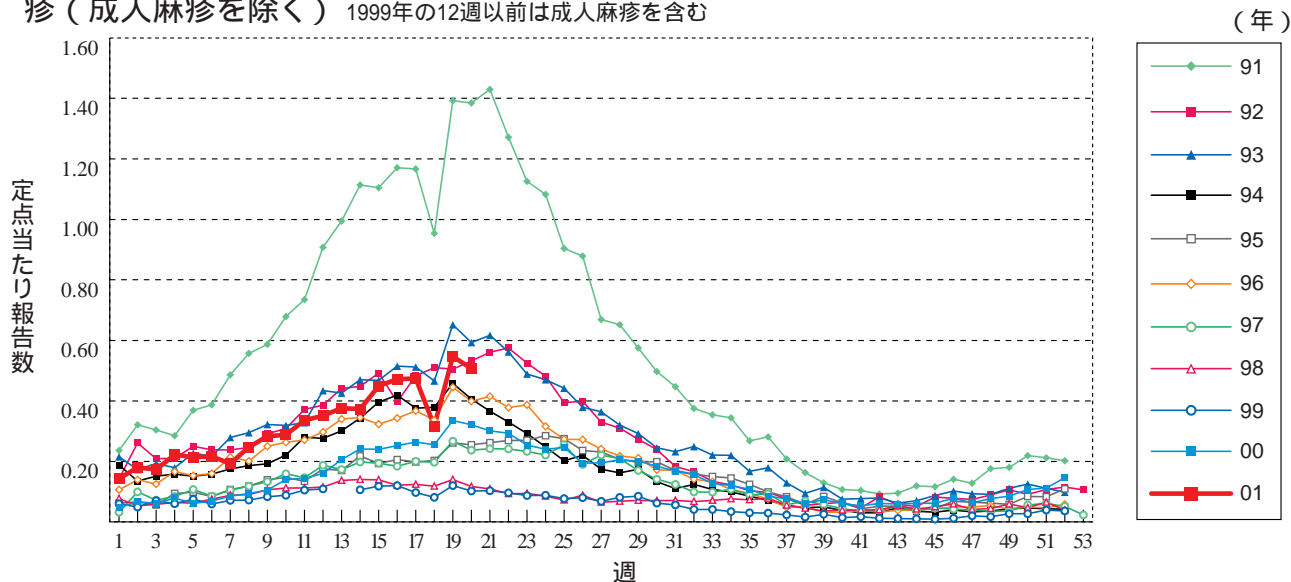
風 疹



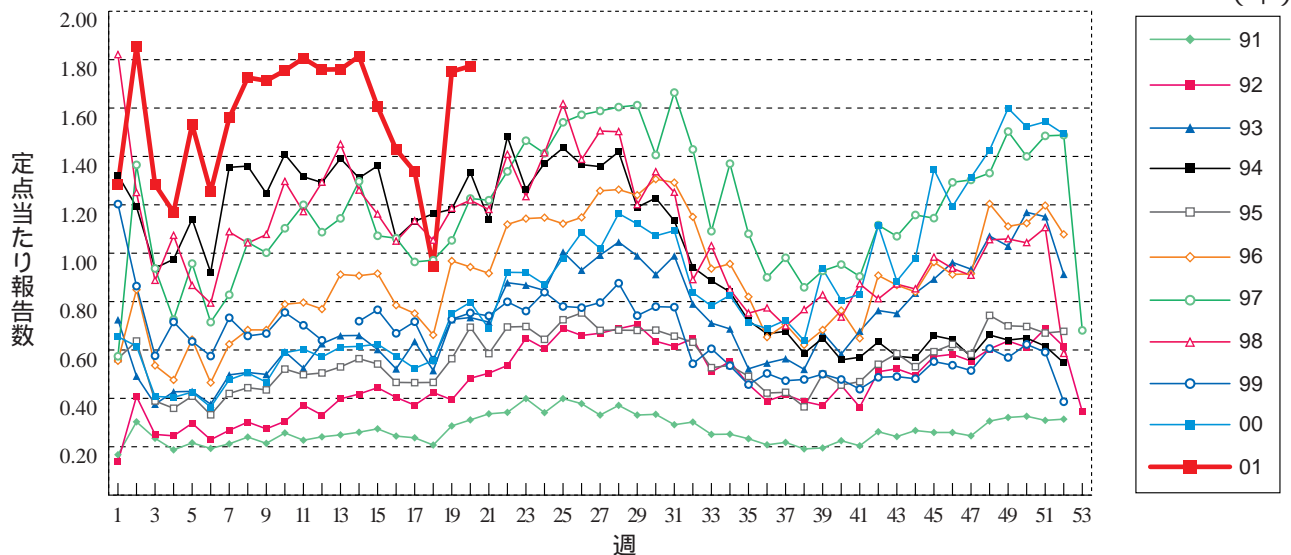
ヘルパンギーナ



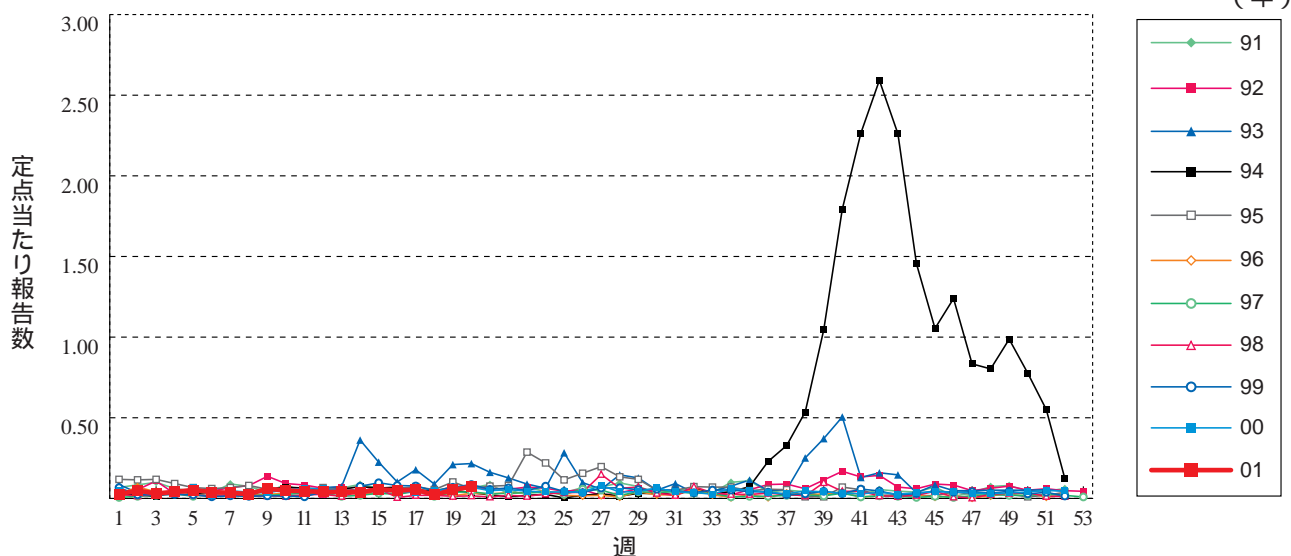
麻 疹 (成人麻疹を除く) 1999年の12週以前は成人麻疹を含む



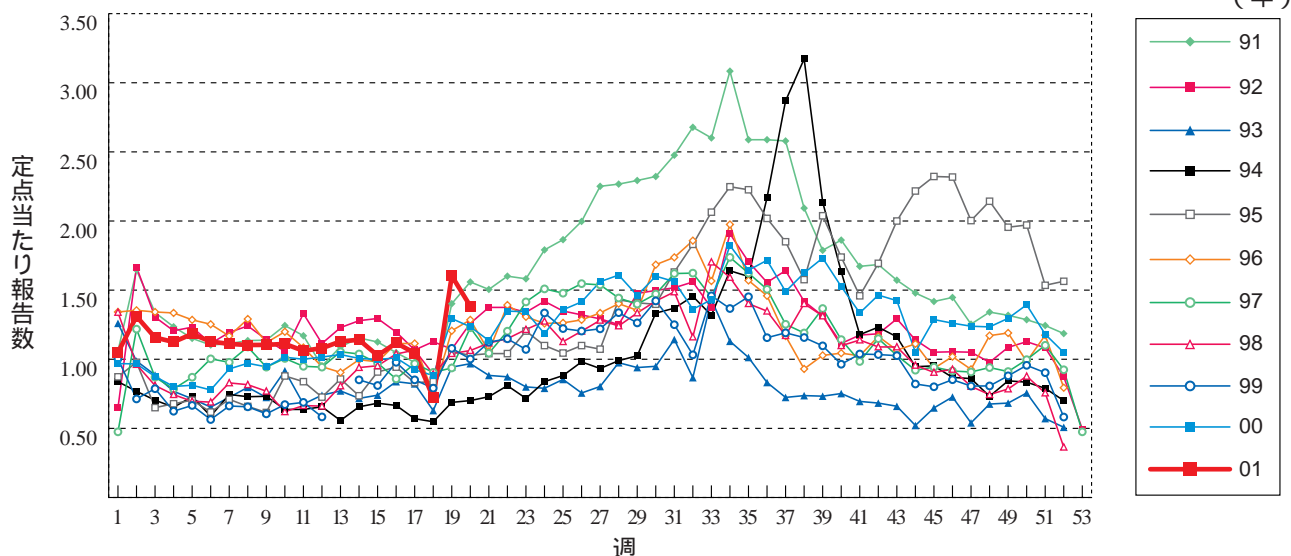
流行性耳下腺炎



急性出血性結膜炎

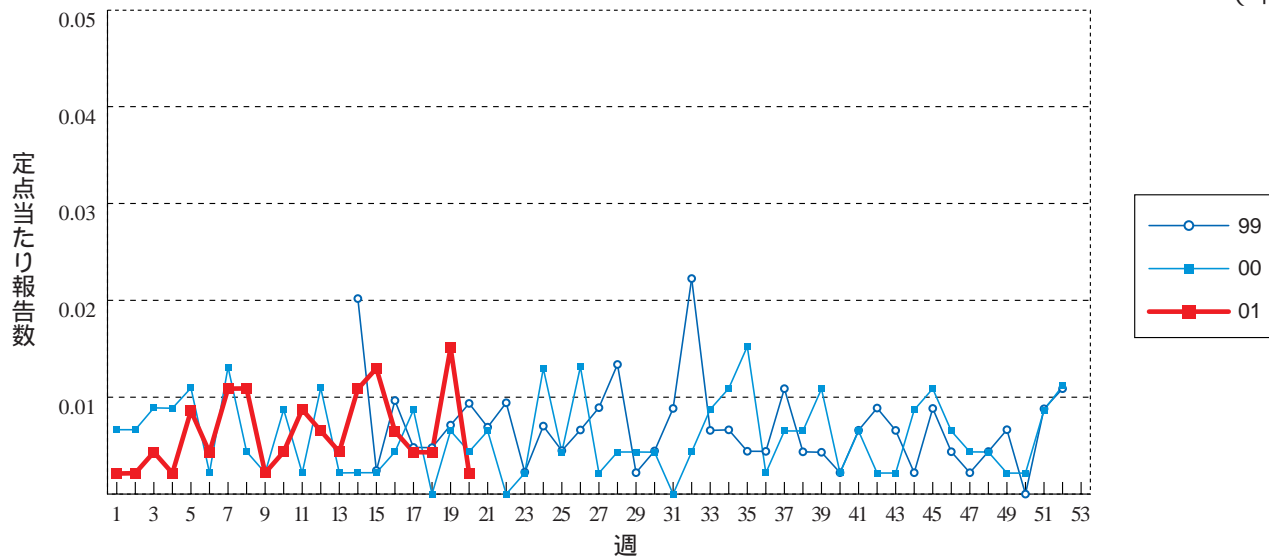


流行性角結膜炎



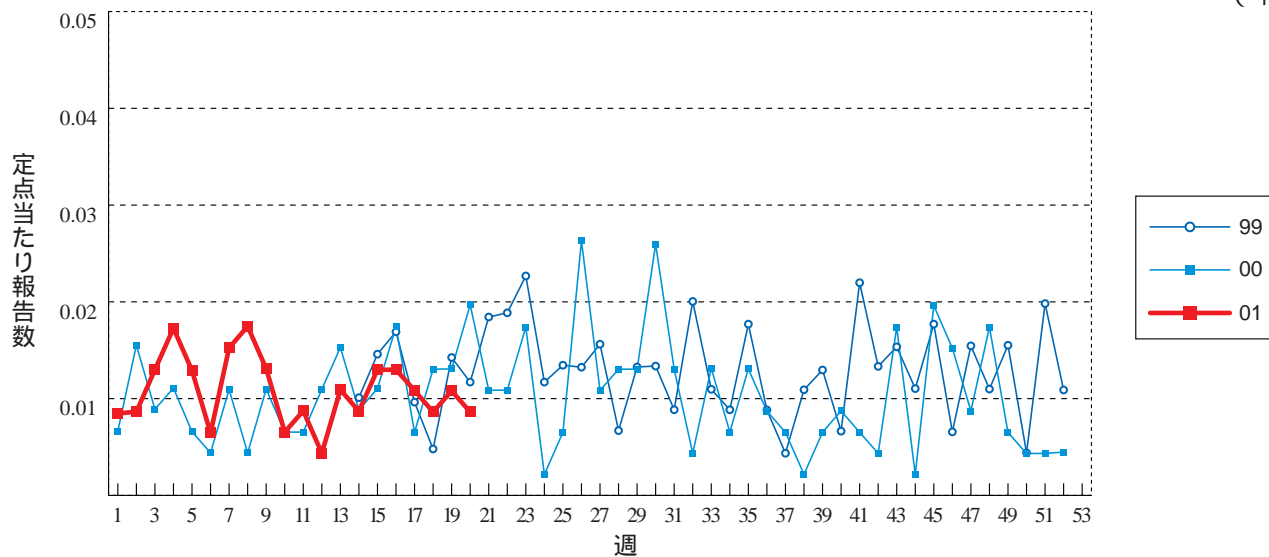
急性脳炎 (日本脳炎を除く)

(年)



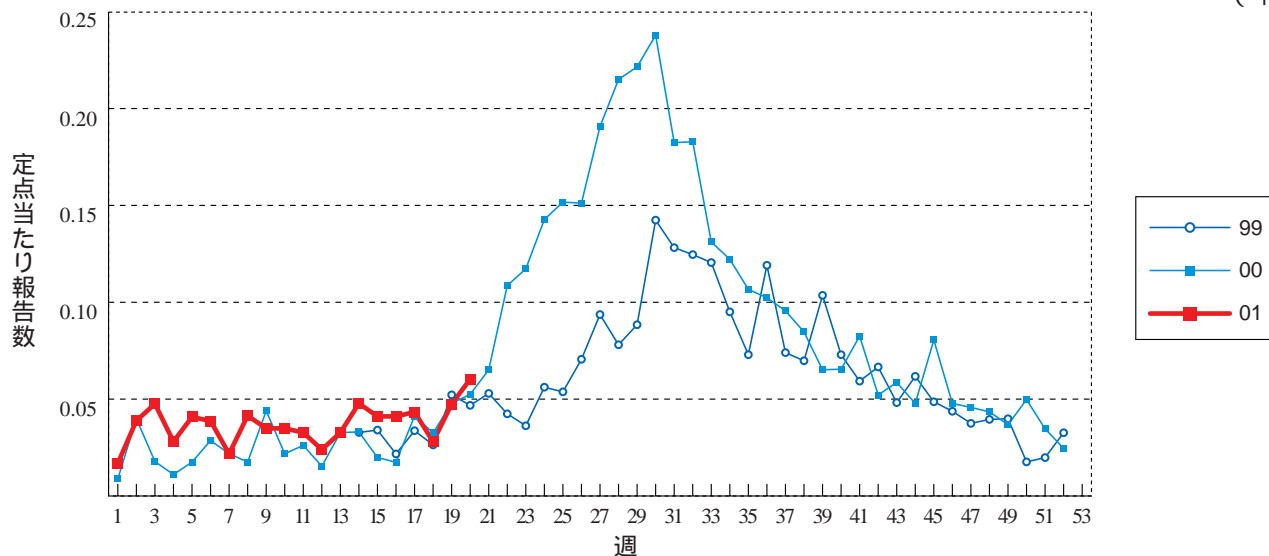
細菌性髄膜炎

(年)



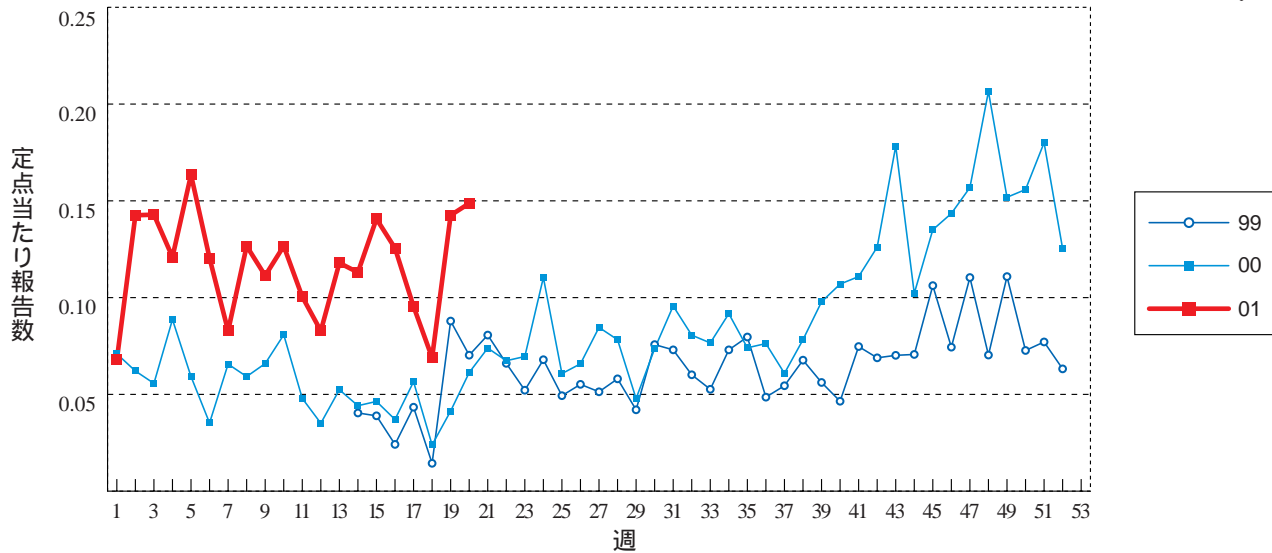
無菌性髄膜炎

(年)



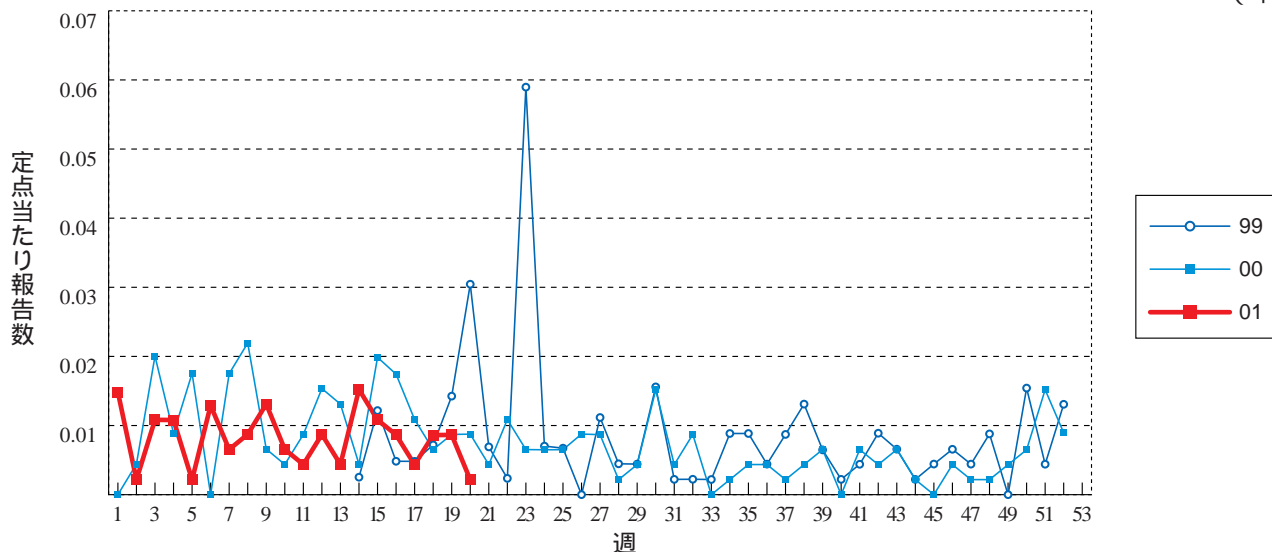
マイコプラズマ肺炎

(年)



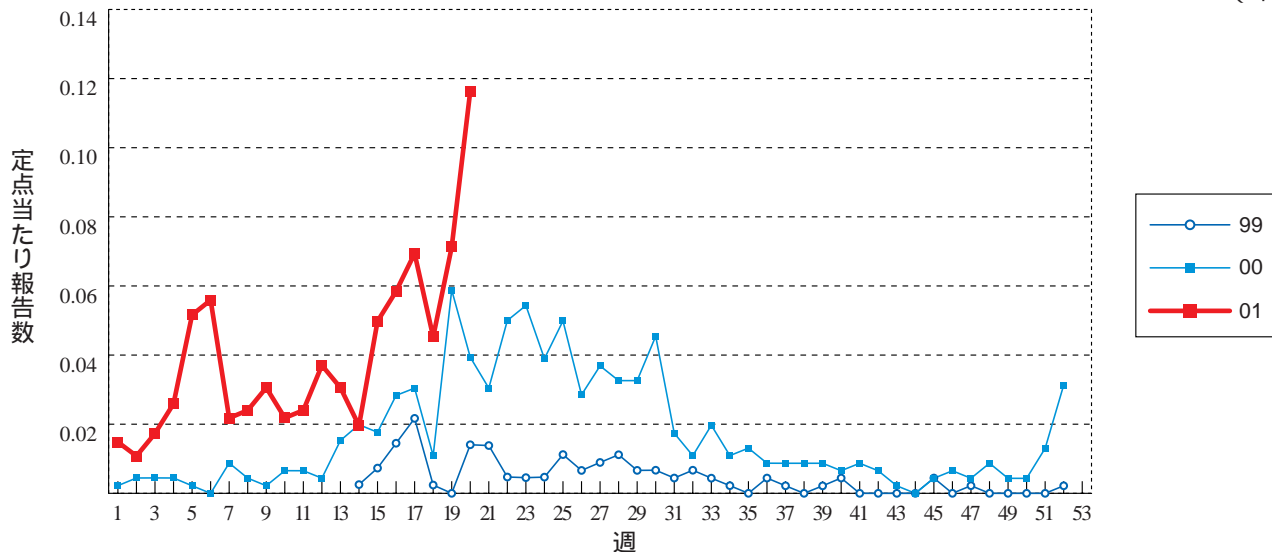
クラミジア肺炎 (オウム病を除く)

(年)



成人麻疹

(年)





20週のデータ

注)表中の報告数は5月25日集計分であり、その後の報告数は次週以降の累計に反映されます。

第3101表 報告数・累積報告数，疾病・都道府県別

平成13年20週

	エボラ出血熱		クリミア・コンゴ出血熱		ペスト		マールブルグ病		ラッサ熱		コレラ		細菌性赤痢		腸チフス		バラチフス	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	13	11	259	2	22	-	9
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	1	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	5	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	6	-	1	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1	1	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1	2	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	14	-	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	12	-	1	-	-
東京都	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	6	54	-	6	-	-	6
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	20	-	-	-	-	2
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	8	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	-	1	-	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	18	-	2	-	-	1
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	3	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	19	-	4	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	19	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	4	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	12	-	1	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-

第3101表 報告数・累積報告数，疾病・都道府県別

平成13年20週

	急性灰白髄炎		ジフテリア		腸管出血性大腸菌感染症		アメーバ赤痢		エキノコックス症		黄熱		オウム病		回歸熱		ウイルス性肝炎	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	-	-	-	41	599	5	130	-	2	-	-	-	11	-	-	14	277
北海道	-	-	-	-	-	8	-	2	-	2	-	-	-	-	-	-	-	4
青森県	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
宮城県	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11
秋田県	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
山形県	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
茨城県	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
栃木県	-	-	-	-	-	4	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
群馬県	-	-	-	-	3	11	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11
埼玉県	-	-	-	-	7	45	-	6	-	-	-	-	-	1	-	-	-	5
千葉県	-	-	-	-	3	140	-	5	-	-	-	-	-	1	-	-	1	3
東京都	-	-	-	-	5	39	1	37	-	-	-	-	-	5	-	-	2	40
神奈川県	-	-	-	-	5	43	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	1	11
新潟県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
富山県	-	-	-	-	5	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
石川県	-	-	-	-	-	4	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	1	3
福井県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
長野県	-	-	-	-	-	5	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	1	4
岐阜県	-	-	-	-	-	2	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	1	28
静岡県	-	-	-	-	-	11	1	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
愛知県	-	-	-	-	-	25	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
三重県	-	-	-	-	-	5	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
滋賀県	-	-	-	-	1	12	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	26	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
大阪府	-	-	-	-	-	61	3	24	-	-	-	-	-	1	-	-	-	28
兵庫県	-	-	-	-	4	17	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	2	28
奈良県	-	-	-	-	1	17	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
鳥取県	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
島根県	-	-	-	-	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	2	11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	11
広島県	-	-	-	-	1	21	-	3	-	-	-	-	-	1	-	-	-	8
山口県	-	-	-	-	-	7	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
徳島県	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
愛媛県	-	-	-	-	-	4	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2
高知県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2
福岡県	-	-	-	-	-	19	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	2	13
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	1	15	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
熊本県	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
大分県	-	-	-	-	1	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
宮崎県	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7
鹿児島県	-	-	-	-	2	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
沖縄県	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

第3101表 報告数・累積報告数，疾病・都道府県別

平成13年20週

	Q 熱		狂 犬 病		クリプト スポリジウム症		クロイツフェルト ・ヤコブ病		劇症型溶血性 レンサ球菌感染症		後天性 免疫不全症候群		コクシジ オイデス症		ジアルジア症		腎症候性出血熱	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	7	-	-	-	3	3	34	-	18	14	313	-	1	-	50	-	-
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	5	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	8	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	8	-	-	-	2	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	16	-	-	-	1	-	-
東京都	-	-	-	-	-	2	-	2	-	1	5	139	-	-	-	28	-	-
神奈川県	-	1	-	-	-	1	-	3	-	-	-	34	-	-	-	5	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	3	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-	-	-
愛知県	-	1	-	-	-	-	-	2	-	2	-	12	-	-	-	-	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	6	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	1	6	-	-	-	5	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	1	4	-	1	5	24	-	-	-	5	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	2	5	-	1	3	9	-	-	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	4	-	-	-	1	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	3	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-

第3101表 報告数・累積報告数，疾病・都道府県別

平成13年20週

	髄膜炎菌性 髄膜炎		先天性風疹 症候群		炭 疽		ツツガムシ病		デング熱		日本紅斑熱		日本脳炎		乳児 ボツリヌス症		梅 毒	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	3	-	-	-	-	8	82	-	10	-	1	-	-	-	-	5	187
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	9
青森県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
秋田県	-	-	-	-	-	-	5	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
山形県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
福島県	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	3
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
埼玉県	-	-	-	-	-	-	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
東京都	-	1	-	-	-	-	1	3	-	6	-	-	-	-	-	-	-	36
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	4
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	2
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
愛知県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	9
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	33
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	2
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
岡山県	-	-	-	-	-	-	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
広島県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	8
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
大分県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2

第3101表 報告数・累積報告数，疾病・都道府県別

平成13年20週

	破傷風		バンコマイシン耐性腸球菌感染症		ハンタウイルス肺症候群		Bウイルス病		ブルセラ症		発疹チフス		マラリア		ライム病		レジオネラ症	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	1	17	1	15	-	-	-	-	-	-	-	-	2	33	-	-	1	29
北海道	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	-	-	-	3
栃木県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
千葉県	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1
東京都	-	1	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	1	9	-	-	-	4
神奈川県	-	1	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	1
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
富山県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
愛知県	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
大阪府	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	1
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
熊本県	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1

第3102表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別

平成13年20週

	インフルエンザ		咽頭結膜熱		A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎		感染性胃腸炎		水痘		手足口病		伝染性紅斑		突発性発疹		百日咳	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総数	1131	0.25	469	0.16	3616	1.21	13729	4.58	6753	2.25	1858	0.62	2107	0.70	2681	0.89	37	0.01
北海道	72	0.31	7	0.05	214	1.48	298	2.06	303	2.09	9	0.06	45	0.31	89	0.61	-	-
青森県	9	0.14	-	-	19	0.46	72	1.76	63	1.54	12	0.29	26	0.63	18	0.44	-	-
岩手県	61	1.00	-	-	24	0.65	88	2.38	72	1.95	2	0.05	37	1.00	27	0.73	-	-
宮城県	49	0.51	4	0.07	90	1.53	316	5.36	142	2.41	4	0.07	64	1.08	56	0.95	-	-
秋田県	64	1.16	1	0.03	35	1.00	170	4.86	43	1.23	8	0.23	29	0.83	28	0.80	2	0.06
山形県	70	1.46	3	0.10	83	2.77	199	6.63	38	1.27	-	-	32	1.07	41	1.37	-	-
福島県	27	0.34	-	-	44	0.92	171	3.56	104	2.17	6	0.13	44	0.92	30	0.63	2	0.04
茨城県	12	0.10	2	0.03	74	1.01	261	3.58	99	1.36	2	0.03	33	0.45	41	0.56	2	0.03
栃木県	-	-	7	0.15	89	1.93	122	2.65	92	2.00	2	0.04	16	0.35	50	1.09	1	0.02
群馬県	15	0.15	11	0.18	117	1.89	195	3.15	127	2.05	12	0.19	51	0.82	60	0.97	-	-
埼玉県	42	0.16	34	0.21	328	2.06	962	6.05	395	2.48	55	0.35	314	1.97	152	0.96	5	0.03
千葉県	23	0.12	25	0.20	246	1.92	534	4.17	335	2.62	39	0.30	147	1.15	134	1.05	4	0.03
東京都	1	0.01	11	0.08	84	0.59	414	2.92	175	1.23	26	0.18	85	0.60	77	0.54	-	-
神奈川県	52	0.17	38	0.18	187	0.91	877	4.26	457	2.22	41	0.20	145	0.70	228	1.11	-	-
新潟県	35	0.35	27	0.45	191	3.18	387	6.45	133	2.22	9	0.15	16	0.27	54	0.90	3	0.05
富山県	14	0.29	-	-	57	1.97	165	5.69	57	1.97	3	0.10	29	1.00	21	0.72	2	0.07
石川県	4	0.08	5	0.17	24	0.83	348	12.00	57	1.97	6	0.21	46	1.59	23	0.79	1	0.03
福井県	1	0.03	5	0.23	32	1.45	210	9.55	77	3.50	6	0.27	39	1.77	23	1.05	-	-
山梨県	26	0.63	-	-	32	1.28	63	2.52	76	3.04	30	1.20	23	0.92	8	0.32	-	-
長野県	48	0.56	1	0.02	95	1.76	344	6.37	211	3.91	19	0.35	27	0.50	43	0.80	3	0.06
岐阜県	22	0.30	16	0.34	80	1.70	205	4.36	91	1.94	8	0.17	29	0.62	31	0.66	-	-
静岡県	10	0.07	9	0.10	99	1.15	470	5.47	304	3.53	6	0.07	69	0.80	74	0.86	1	0.01
愛知県	90	0.47	69	0.38	233	1.28	660	3.63	397	2.18	22	0.12	174	0.96	183	1.01	1	0.01
三重県	38	0.52	9	0.20	52	1.16	298	6.62	103	2.29	46	1.02	46	1.02	57	1.27	-	-
滋賀県	1	0.02	39	1.22	22	0.69	119	3.72	41	1.28	7	0.22	11	0.34	20	0.63	-	-
京都府	33	0.26	4	0.05	57	0.75	477	6.28	91	1.20	16	0.21	22	0.29	51	0.67	1	0.01
大阪府	9	0.03	9	0.05	168	0.87	832	4.29	428	2.21	28	0.14	39	0.20	164	0.85	4	0.02
兵庫県	22	0.11	25	0.20	95	0.74	928	7.25	297	2.32	103	0.80	49	0.38	154	1.20	-	-
奈良県	1	0.02	-	-	23	0.66	181	5.17	60	1.71	5	0.14	22	0.63	25	0.71	-	-
和歌山県	8	0.16	1	0.03	30	0.97	128	4.13	87	2.81	1	0.03	3	0.10	26	0.84	-	-
鳥取県	-	-	3	0.16	72	3.79	139	7.32	67	3.53	-	-	4	0.21	27	1.42	-	-
島根県	14	0.37	4	0.17	14	0.61	84	3.65	17	0.74	2	0.09	3	0.13	11	0.48	-	-
岡山県	22	0.26	3	0.06	29	0.54	195	3.61	77	1.43	7	0.13	8	0.15	24	0.44	-	-
広島県	1	0.01	6	0.12	103	2.02	322	6.31	148	2.90	15	0.29	44	0.86	60	1.18	-	-
山口県	10	0.14	30	0.61	55	1.12	279	5.69	125	2.55	93	1.90	29	0.59	63	1.29	-	-
徳島県	7	0.18	1	0.04	27	1.17	88	3.83	50	2.17	18	0.78	7	0.30	22	0.96	1	0.04
香川県	8	0.16	4	0.13	21	0.66	114	3.56	45	1.41	3	0.09	9	0.28	29	0.91	1	0.03
愛媛県	21	0.33	12	0.31	33	0.85	184	4.72	103	2.64	6	0.15	27	0.69	39	1.00	-	-
高知県	9	0.18	5	0.16	40	1.29	111	3.58	94	3.03	2	0.06	7	0.23	23	0.74	-	-
福岡県	16	0.10	4	0.04	81	0.77	404	3.85	264	2.51	356	3.39	121	1.15	96	0.91	1	0.01
佐賀県	4	0.10	-	-	18	0.78	80	3.48	122	5.30	70	3.04	13	0.57	37	1.61	-	-
長崎県	1	0.02	5	0.10	18	0.38	161	3.35	73	1.52	72	1.50	11	0.23	24	0.50	-	-
熊本県	10	0.12	15	0.31	29	0.59	219	4.47	144	2.94	184	3.76	24	0.49	61	1.24	1	0.02
大分県	19	0.33	2	0.06	50	1.39	252	7.00	85	2.36	258	7.17	17	0.47	47	1.31	1	0.03
宮崎県	4	0.07	2	0.05	61	1.65	245	6.62	114	3.08	153	4.14	45	1.22	75	2.03	-	-
鹿児島県	59	0.60	11	0.18	30	0.50	337	5.62	155	2.58	84	1.40	25	0.42	46	0.77	-	-
沖縄県	67	1.16	-	-	11	0.32	21	0.62	115	3.38	2	0.06	1	0.03	9	0.26	-	-

第3102表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別

平成13年20週

	風 疹		ヘルパンギーナ		麻 疹 (成人麻疹を除く)		流行性耳下腺炎		急性出血性 結膜炎		流行性角結膜炎		急性脳炎 (日本脳炎を除く)		細菌性髄膜炎		無菌性髄膜炎	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総 数	77	0.03	608	0.20	1519	0.51	5317	1.77	45	0.07	869	1.38	1	0.00	4	0.01	28	0.06
北海道	9	0.06	5	0.03	97	0.67	250	1.72	1	0.03	43	1.48	-	-	-	-	-	-
青森県	4	0.10	1	0.02	29	0.71	39	0.95	-	-	19	1.73	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	5	0.14	6	0.16	5	0.14	-	-	12	1.00	-	-	-	-	-	-
宮城県	1	0.02	15	0.25	26	0.44	21	0.36	-	-	1	0.09	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	39	1.11	20	0.57	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	2	0.07	2	0.07	43	1.43	-	-	3	0.38	-	-	-	-	1	0.10
福島県	1	0.02	2	0.04	52	1.08	46	0.96	4	0.33	22	1.83	-	-	-	-	-	-
茨城県	2	0.03	7	0.10	21	0.29	139	1.90	-	-	82	5.13	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	5	0.11	2	0.04	30	0.65	3	0.25	35	2.92	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	12	0.19	13	0.21	73	1.18	2	0.14	39	2.79	-	-	-	-	-	-
埼玉県	2	0.01	31	0.19	33	0.21	404	2.54	2	0.06	44	1.22	-	-	1	0.11	1	0.11
千葉県	2	0.02	9	0.07	71	0.55	288	2.25	-	-	72	2.18	1	0.08	-	-	1	0.08
東京都	2	0.01	13	0.09	38	0.27	167	1.18	3	0.21	14	1.00	-	-	-	-	-	-
神奈川県	7	0.03	24	0.12	62	0.30	437	2.12	4	0.10	67	1.60	-	-	-	-	1	0.09
新潟県	-	-	7	0.12	4	0.07	251	4.18	-	-	3	0.33	-	-	-	-	1	0.08
富山県	-	-	4	0.14	1	0.03	57	1.97	-	-	1	0.14	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	2	0.07	22	0.76	72	2.48	-	-	5	0.71	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	2	0.09	5	0.23	176	8.00	-	-	8	2.67	-	-	-	-	1	0.17
山梨県	-	-	1	0.04	7	0.28	13	0.52	-	-	5	1.67	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	2	0.04	20	0.37	119	2.20	-	-	13	1.30	-	-	-	-	-	-
岐阜県	1	0.02	3	0.06	13	0.28	96	2.04	-	-	13	1.18	-	-	-	-	-	-
静岡県	1	0.01	5	0.06	25	0.29	186	2.16	-	-	19	0.95	-	-	-	-	-	-
愛知県	4	0.02	37	0.20	88	0.48	323	1.77	1	0.03	53	1.51	-	-	1	0.08	4	0.31
三重県	1	0.02	9	0.20	4	0.09	126	2.80	-	-	4	0.33	-	-	-	-	1	0.11
滋賀県	1	0.03	8	0.25	11	0.34	41	1.28	-	-	4	0.57	-	-	-	-	1	0.14
京都府	3	0.04	20	0.26	27	0.36	96	1.26	-	-	16	0.84	-	-	-	-	-	-
大阪府	11	0.06	93	0.48	110	0.57	317	1.63	2	0.04	27	0.52	-	-	1	0.08	4	0.33
兵庫県	1	0.01	65	0.51	31	0.24	132	1.03	1	0.03	34	0.97	-	-	-	-	1	0.07
奈良県	-	-	11	0.31	9	0.26	61	1.74	-	-	15	1.67	-	-	-	-	2	0.33
和歌山県	-	-	15	0.48	7	0.23	31	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	6	0.32	1	0.05	10	0.53	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	2	0.09	3	0.13	30	1.30	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	1	0.02	10	0.19	38	0.70	44	0.81	-	-	10	0.83	-	-	-	-	-	-
広島県	4	0.08	23	0.45	69	1.35	82	1.61	1	0.08	39	3.25	-	-	1	0.07	2	0.14
山口県	-	-	7	0.14	13	0.27	62	1.27	1	0.11	9	1.00	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	12	0.52	4	0.17	21	0.91	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	7	0.22	32	1.00	96	3.00	-	-	4	1.33	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	15	0.38	8	0.21	68	1.74	-	-	20	2.86	-	-	-	-	-	-
高知県	6	0.19	7	0.23	28	0.90	16	0.52	-	-	4	1.33	-	-	-	-	1	0.13
福岡県	12	0.11	62	0.59	96	0.91	348	3.31	-	-	41	1.71	-	-	-	-	2	0.13
佐賀県	-	-	5	0.22	24	1.04	95	4.13	-	-	1	0.25	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	11	0.23	18	0.38	49	1.02	17	1.70	15	1.50	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	14	0.29	100	2.04	91	1.86	1	0.11	21	2.33	-	-	-	-	2	0.13
大分県	-	-	5	0.14	61	1.69	70	1.94	-	-	1	0.20	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	3	0.08	65	1.76	65	1.76	1	0.25	15	3.75	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	1	0.02	31	0.52	73	1.22	1	0.17	6	1.00	-	-	-	-	-	-
沖縄県	1	0.03	3	0.09	53	1.56	38	1.12	-	-	10	1.00	-	-	-	-	2	0.29

第3102表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別 平成13年20週

	マイコプラズマ肺炎		クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		成人麻疹	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総 数	69	0.15	1	0.00	54	0.12
北海道	2	0.09	-	-	7	0.30
青森県	-	-	-	-	-	-
岩手県	1	0.05	-	-	-	-
宮城県	13	1.08	1	0.08	3	0.25
秋田県	-	-	-	-	-	-
山形県	3	0.30	-	-	2	0.20
福島県	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-
栃木県	1	0.14	-	-	2	0.29
群馬県	1	0.10	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	1	0.11
千葉県	-	-	-	-	5	0.38
東京都	-	-	-	-	7	0.28
神奈川県	2	0.18	-	-	3	0.27
新潟県	2	0.15	-	-	-	-
富山県	1	0.20	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	4	0.80
福井県	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	2	0.18
岐阜県	-	-	-	-	-	-
静岡県	1	0.13	-	-	-	-
愛知県	5	0.38	-	-	1	0.08
三重県	1	0.11	-	-	-	-
滋賀県	2	0.29	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-
大阪府	5	0.42	-	-	4	0.33
兵庫県	2	0.14	-	-	1	0.07
奈良県	1	0.17	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-
鳥取県	5	1.00	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-
広島県	1	0.07	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-
愛媛県	8	1.33	-	-	-	-
高知県	1	0.13	-	-	-	-
福岡県	1	0.07	-	-	5	0.33
佐賀県	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	1	0.07
大分県	-	-	-	-	2	0.20
宮崎県	4	0.57	-	-	2	0.29
鹿児島県	2	0.17	-	-	-	-
沖縄県	4	0.57	-	-	2	0.29

感染症週報 第3巻、第20号 平成13年6月4日発行
発 行：国立感染症研究所

厚生労働省健康局結核感染症課
厚生労働省大臣官房統計情報部

事務局：国立感染症研究所感染症情報センター
〒162-8640東京都新宿区戸山1-23-1
T E L : 03-5285-1111
F A X : 03-5285-1129

U R L : <http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>

< 国立感染症研究所 感染症情報センター >

<http://www.mhlw.go.jp/>

< 厚生労働省 >

<http://www.forth.go.jp/>

< 旅行者のための海外感染症情報(厚生労働省検疫所) >

本週報は、感染症新法に基づくものであり、全国の医療従事者、定点医療機関、保健所、保健所設置市、特別区、都道府県、地方衛生研究所、検疫所の皆様のご協力を得て、国立感染症研究所感染症情報センターにおいて編集したものです。

また、本週報は速報性を重視しておりますので、今後調査などの結果に応じて、若干の変更が生じることがありますが、その場合には週報上にて訂正させていただきます。

「感染症の話」及び「読者のコーナー」の回答欄の内容に関する責は、それぞれの執筆者及び回答者に属しますが、内容に関するご質問、ご意見については事務局でお受けいたします。

なお、週報の内容について、学術的研究、あるいは公衆衛生活動にかかわる業務以外の目的においては、無断転載を禁じます。